

決算説明会

2023年3月期 第2四半期

ミネベアミツミ株式会社

2022年11月2日

1. 業績の説明

2. 事業概況と経営戦略

業績の説明

取締役 専務執行役員 吉田 勝彦

売上高は四半期として過去最高 営業利益は第2四半期として過去最高

(百万円)	2022年3月期	2023年3月期		前年同期比 伸び率	前四半期比 伸び率
	2Q	1Q	2Q		
売上高	281,955	251,040	330,021	+17.0%	+31.5%
営業利益	25,005	14,255	26,394	+5.6%	+85.2%
税引前利益	24,716	14,274	28,184	+14.0%	+97.4%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	20,393	10,734	20,060	-1.6%	+86.9%
基本的1株当たり 四半期利益 (円)	50.36	26.43	48.62	-3.5%	+84.0%

為替レート	2022年3月期 2Q	2023年3月期 1Q	2023年3月期 2Q
US\$	110.10円	124.44円	135.32円
ユーロ	130.82円	134.45円	139.28円
タイバーツ	3.40円	3.68円	3.79円
人民元	17.05円	19.13円	20.05円

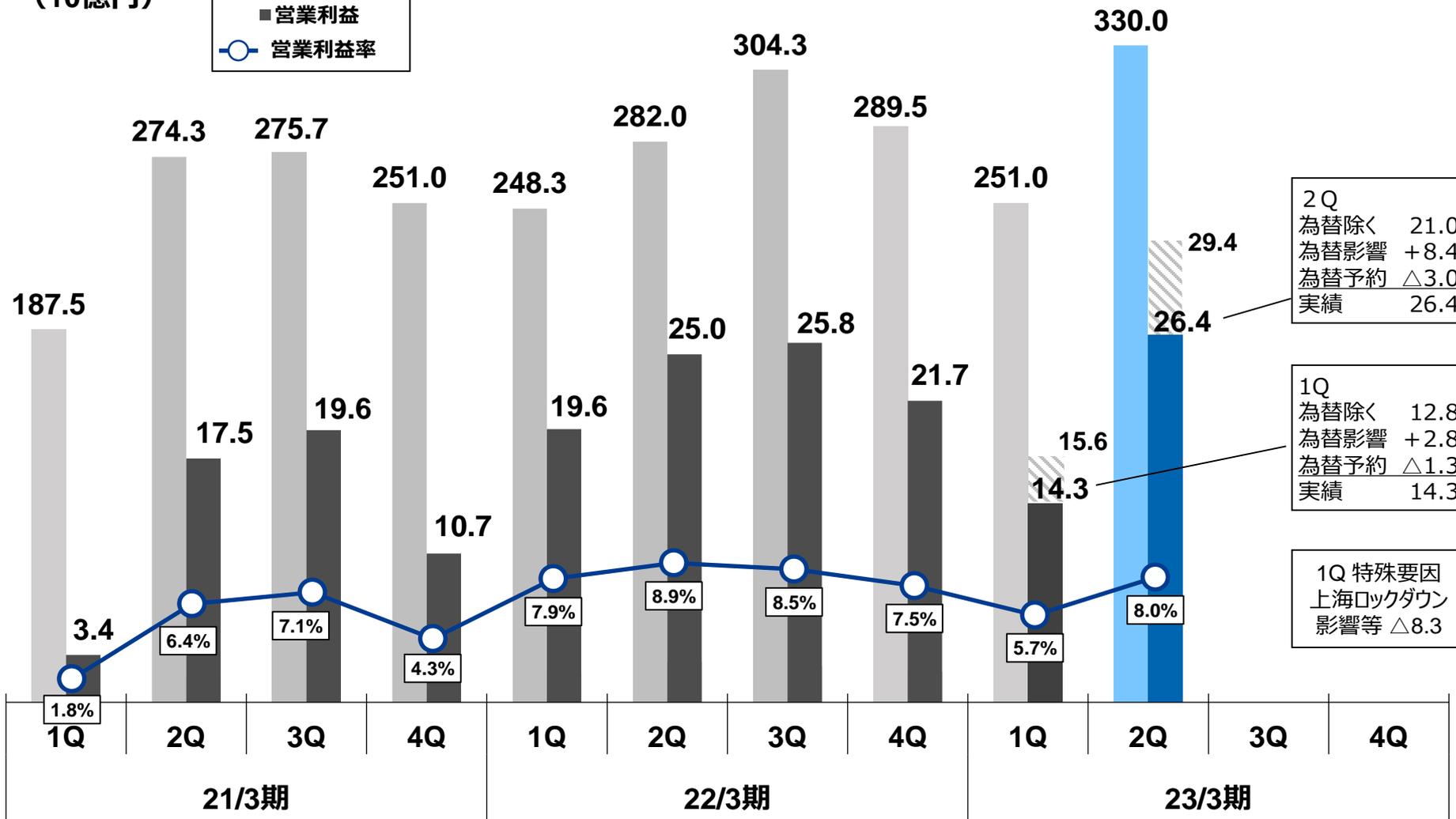
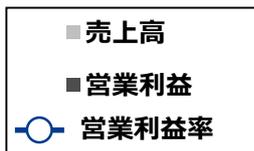
売上高は上半期として過去最高

(百万円)	2022年3月期	2023年3月期	前年同期比 伸び率	2023年3月期上半期	
	上半期	上半期		8月予想	達成率
売上高	530,260	581,061	+9.6%	568,000	+2.3%
営業利益	44,633	40,649	-8.9%	41,000	-0.9%
税引前利益	44,319	42,458	-4.2%	40,500	+4.8%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	35,052	30,794	-12.1%	30,000	+2.6%
基本的1株当たり 当期利益 (円)	86.45	75.22	-13.0%	73.86	+1.8%

為替レート	2022年3月期 上半期	2023年3月期 上半期
US\$	109.55円	129.88円
ユーロ	130.83円	136.87円
タイバーツ	3.45円	3.74円
人民元	16.93円	19.59円

売上高、営業利益、営業利益率

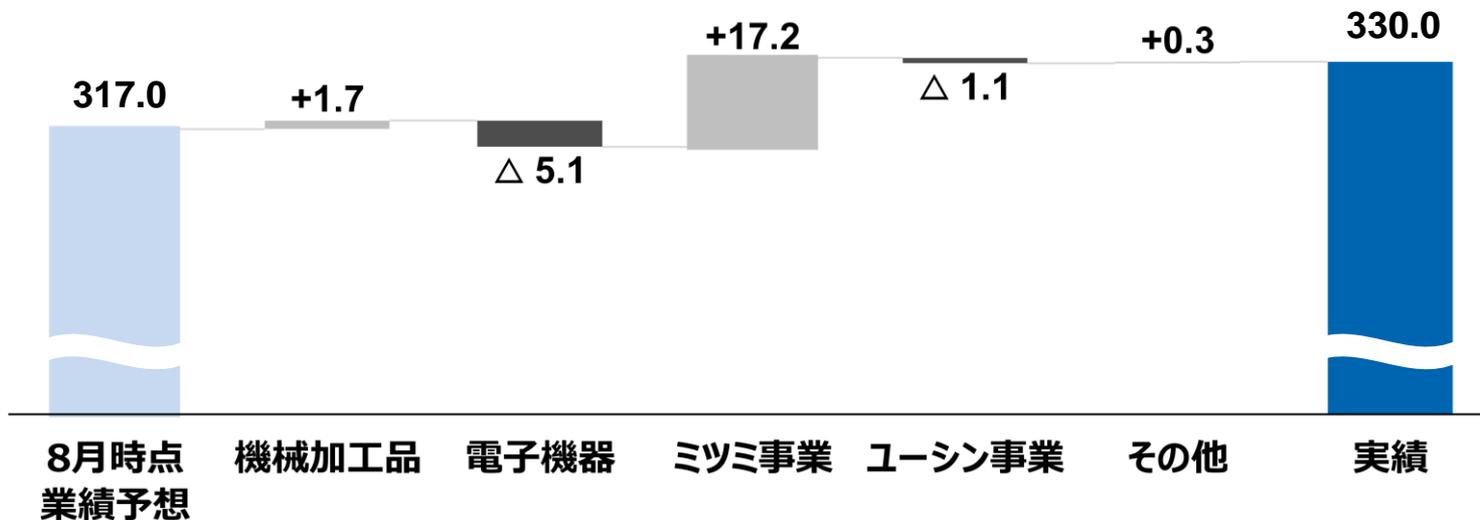
(10億円)



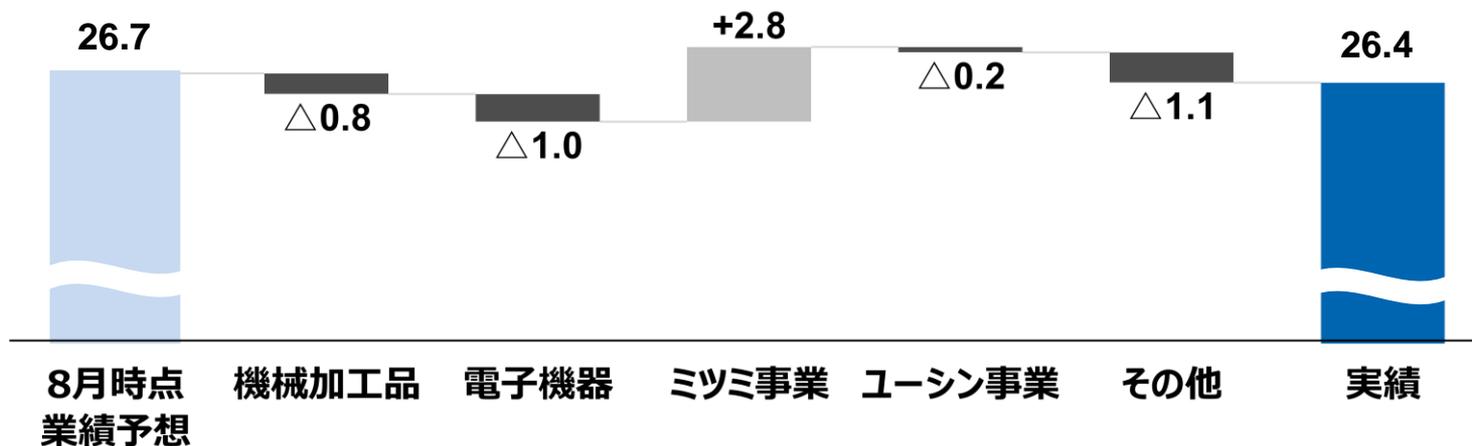
2Q実績 8月時点業績予想からの差異

(10億円)

売上高

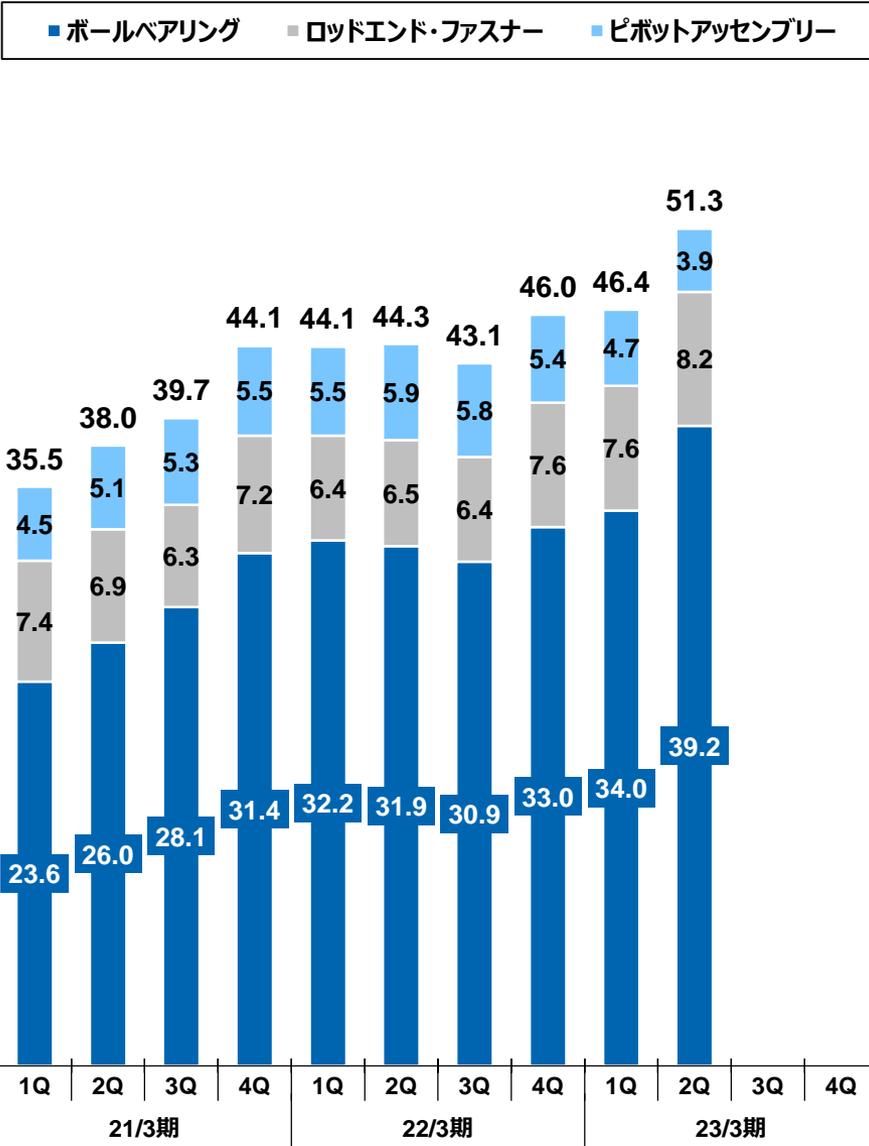


営業利益

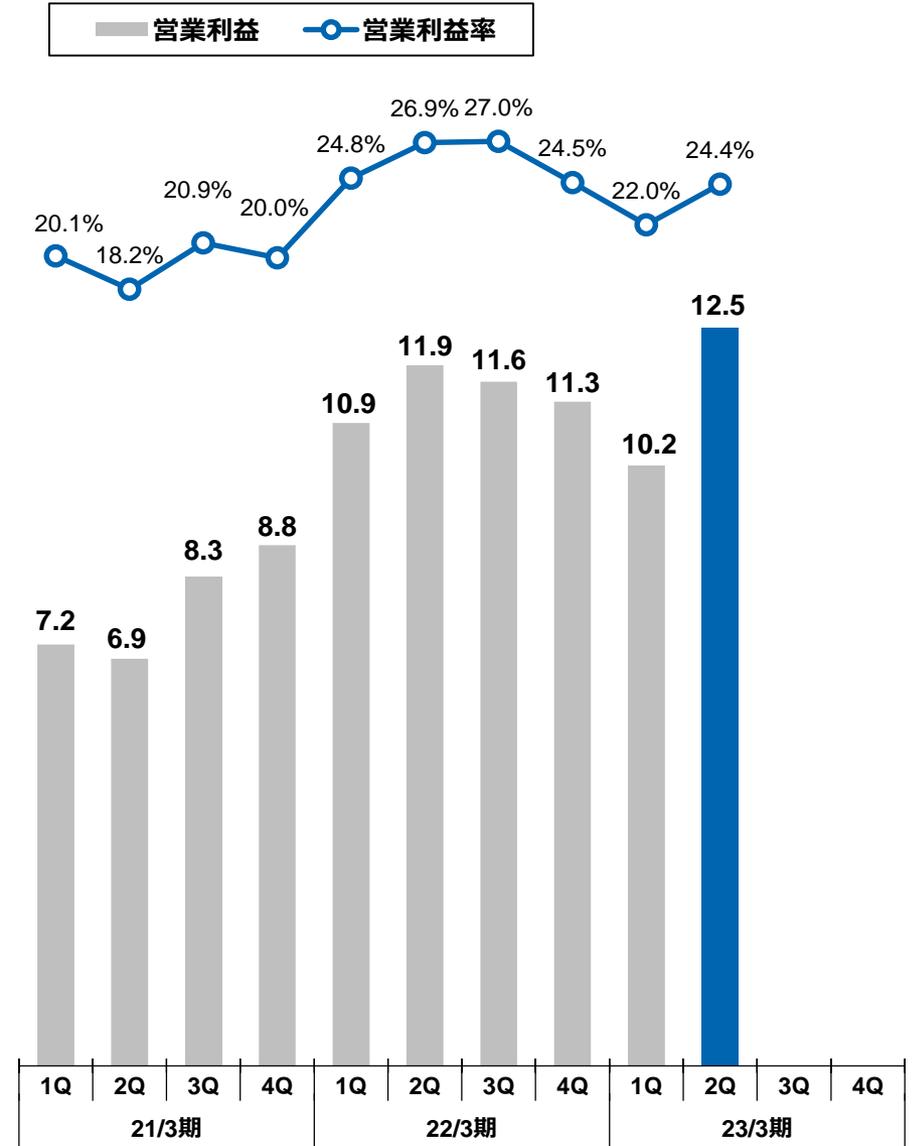


機械加工品セグメント

売上高 (10億円)

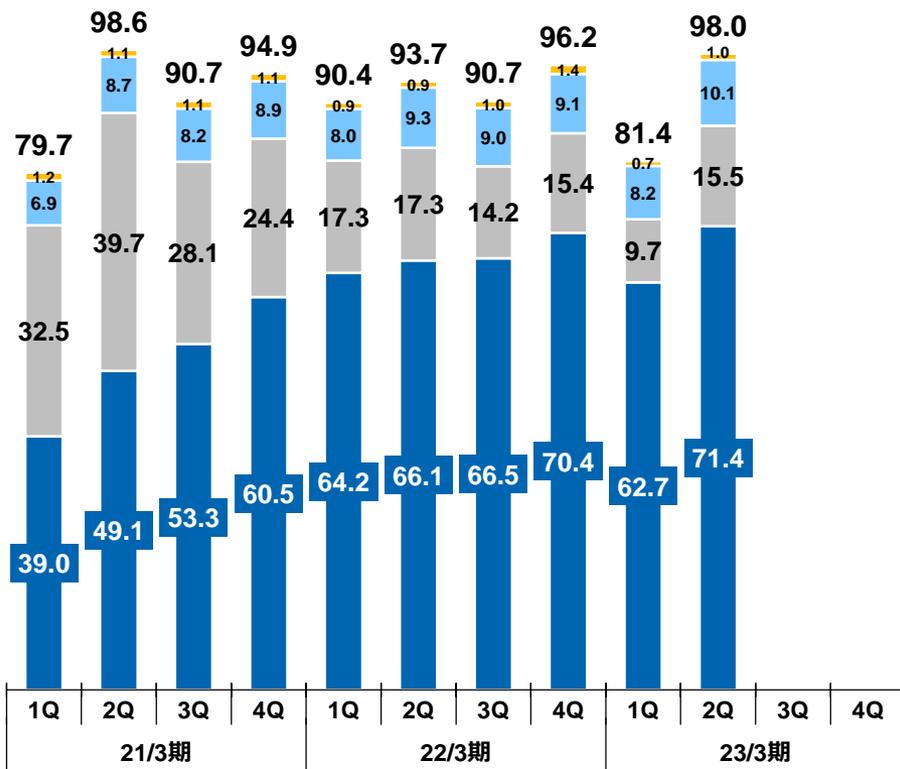
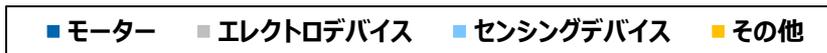


営業利益 (10億円)

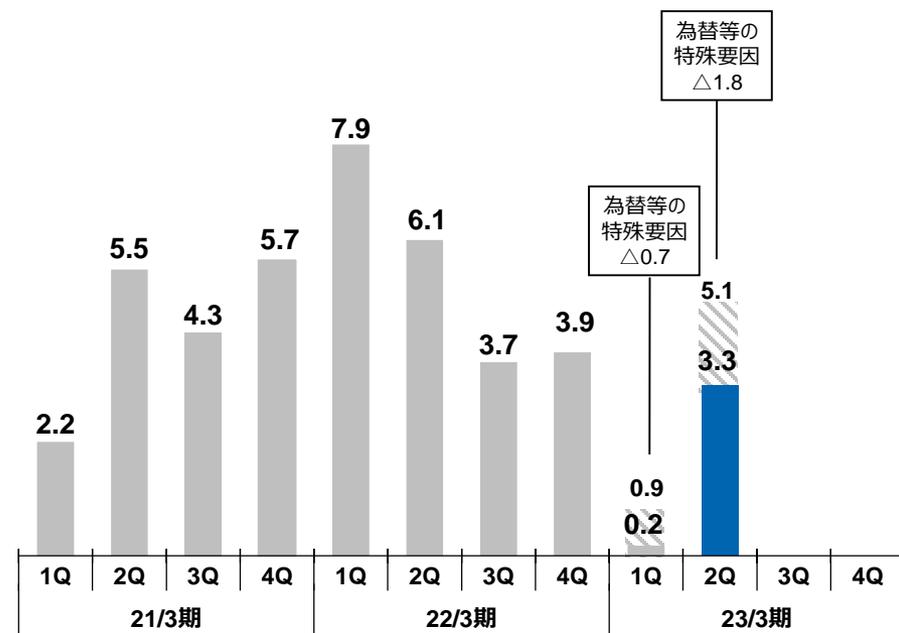


電子機器セグメント

売上高 (10億円)

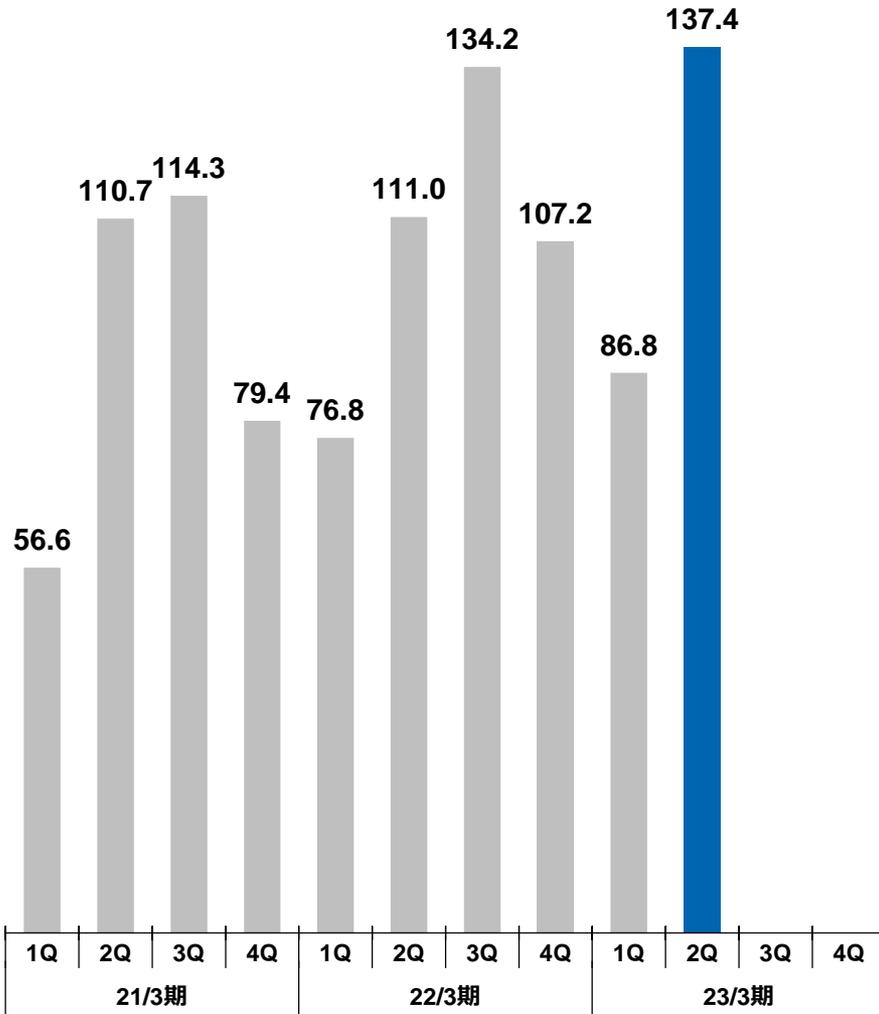


営業利益 (10億円)

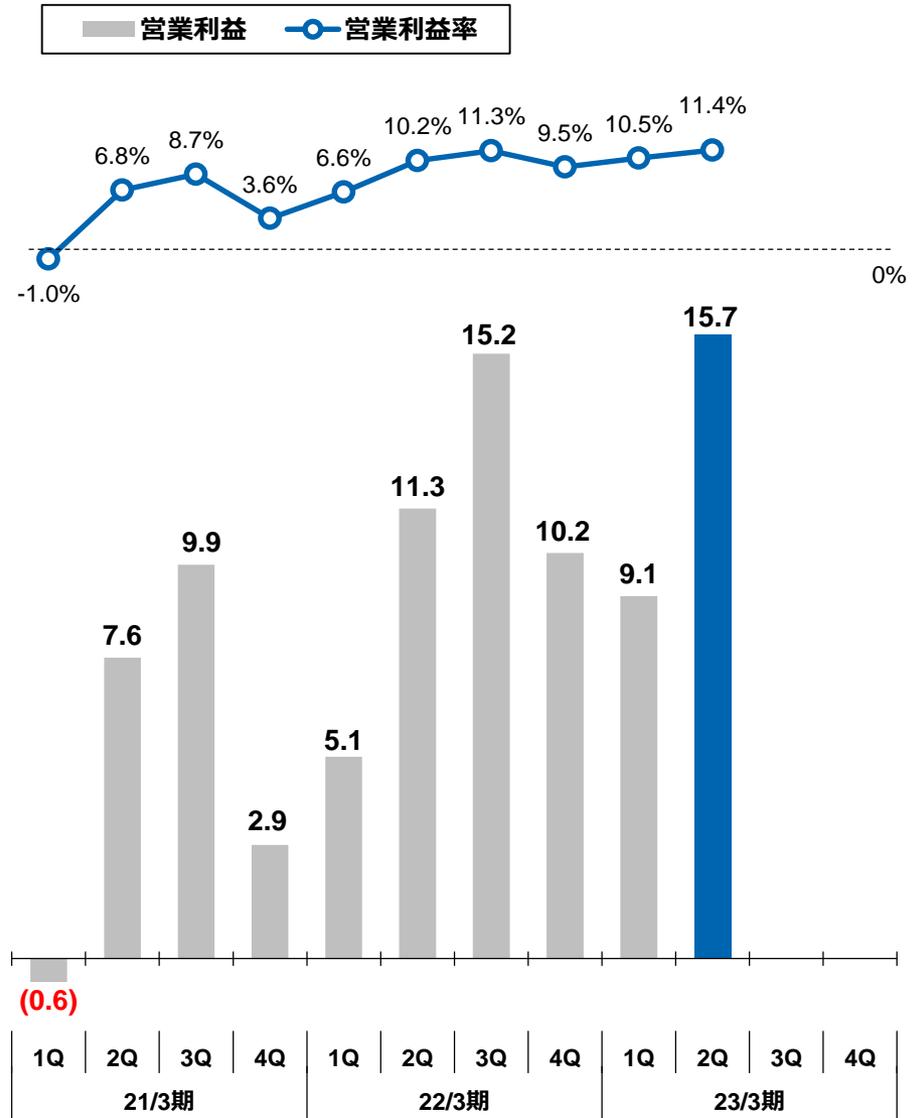


三菱事業セグメント

売上高 (10億円)

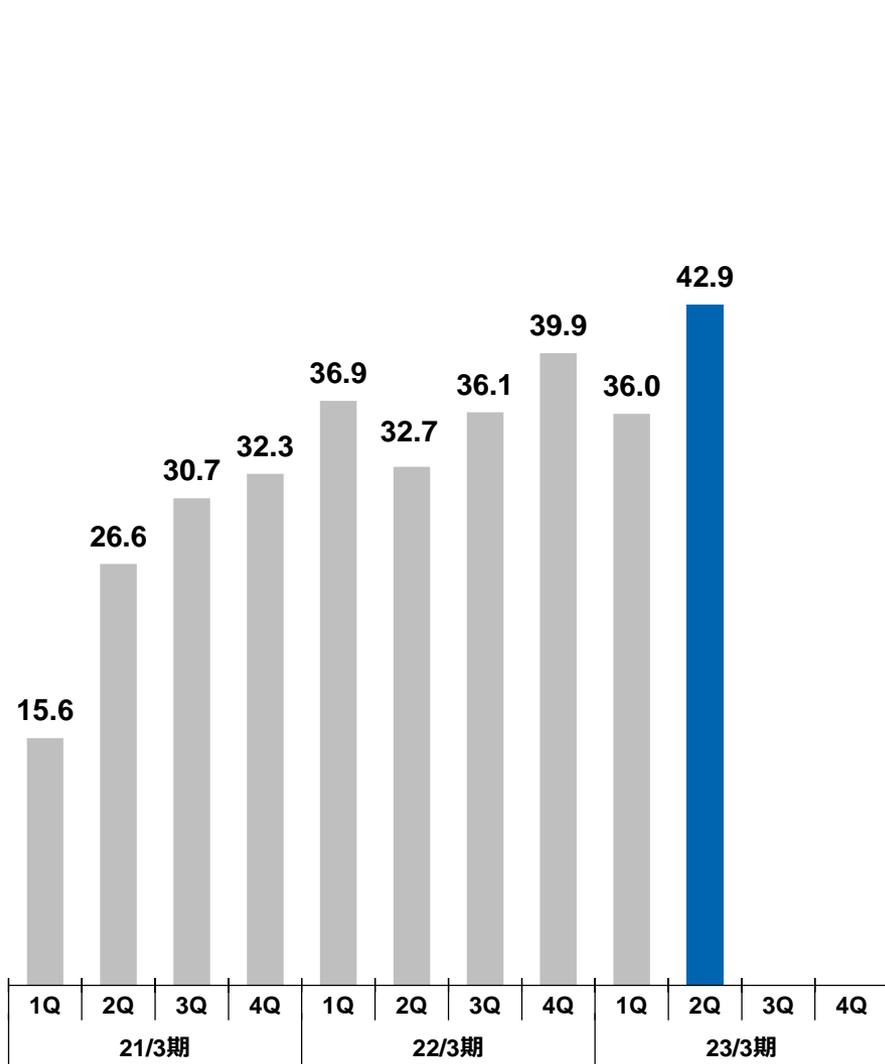


営業利益 (10億円)

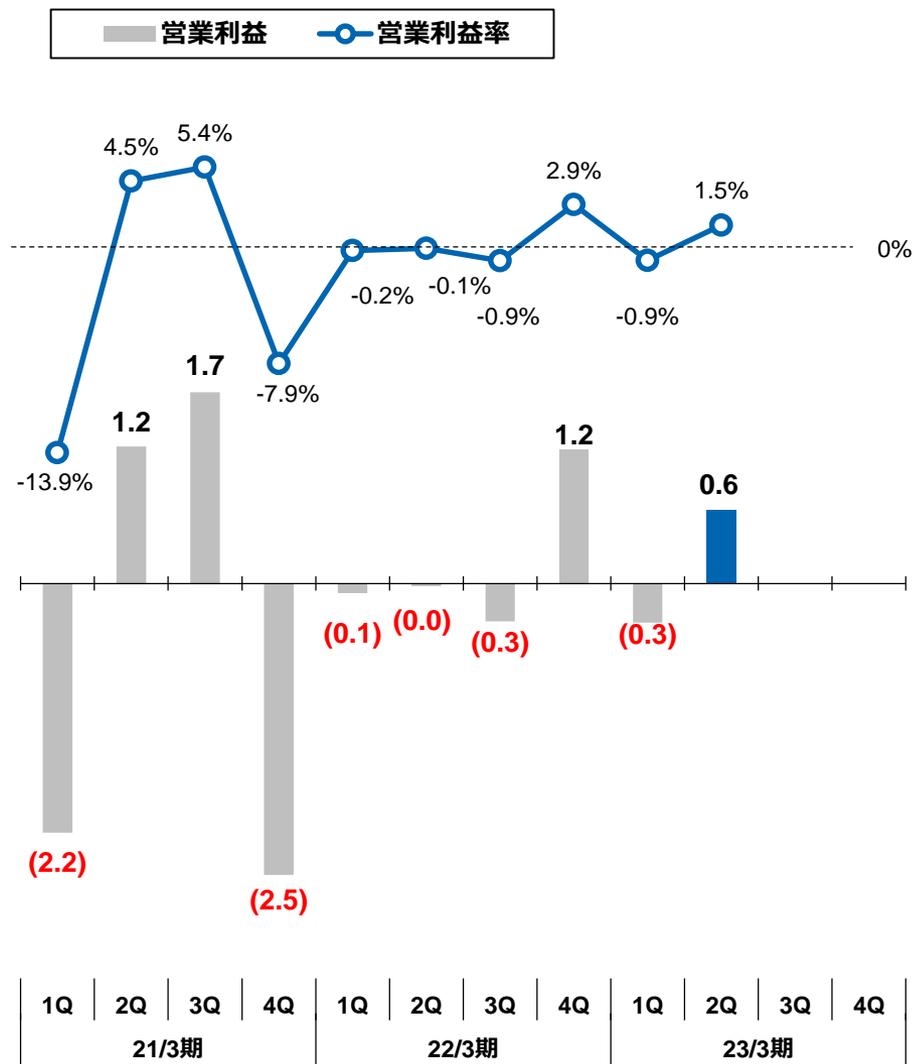


ユーシン事業セグメント

売上高 (10億円)



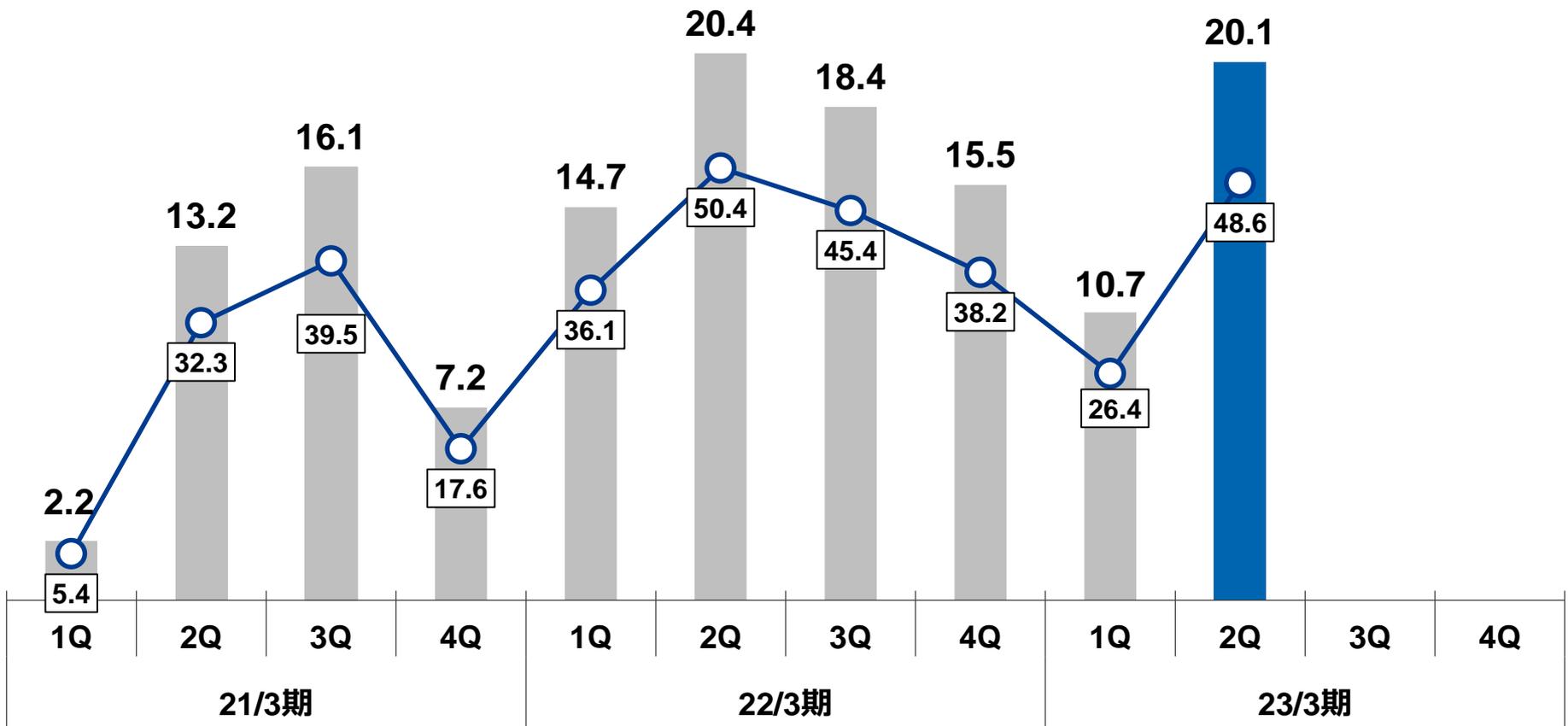
営業利益 (10億円)



親会社の所有者に帰属する四半期利益

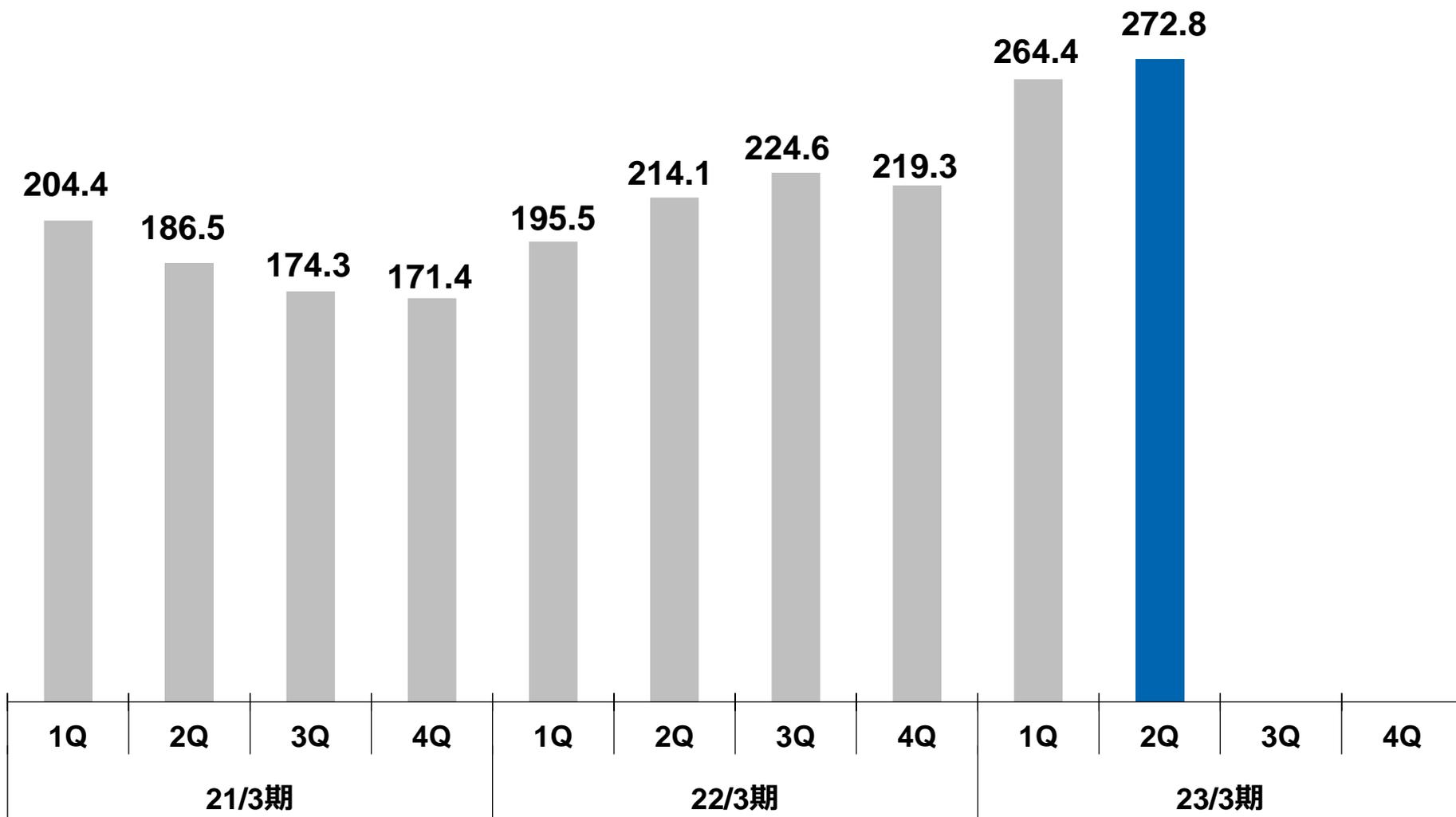
(10億円)

■ 親会社の所有者に帰属する四半期利益
○ 基本的1株当たり四半期利益 (円)



棚卸資産

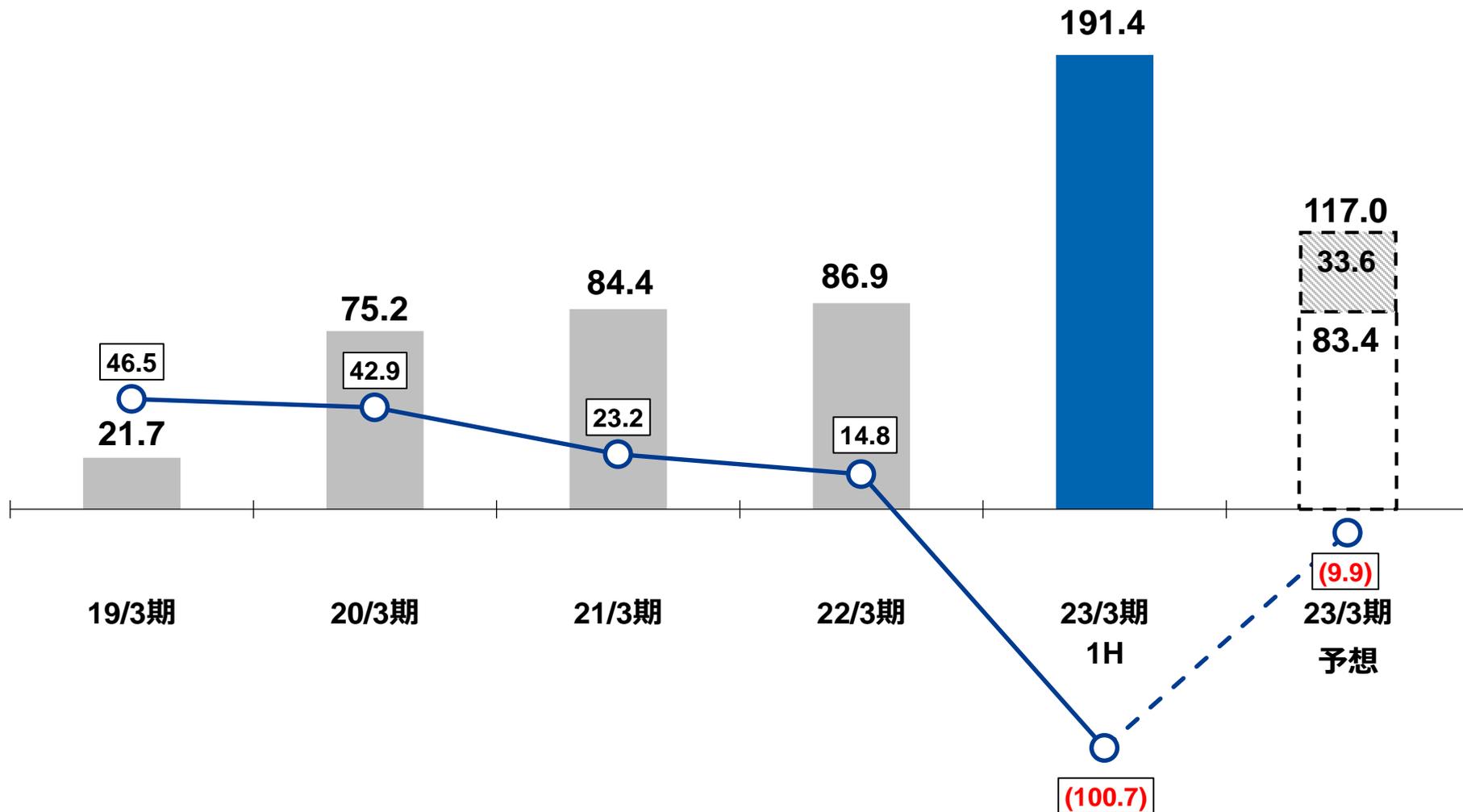
(10億円)



ネット有利子負債、フリーキャッシュフロー

(10億円)

■ ネット有利子負債* ○ フリーキャッシュフロー



*ネット有利子負債：連結財政状態計算書上の「社債および借入金」 - (「現金および現金同等物」+3か月超の定期預金)

連結業績予想を上方修正

(百万円)	2022年3月期 通期	2023年3月期			
		上半期	下半期	通期	前期比
売上高	1,124,140	581,061	668,939	1,250,000	+11.2%
営業利益	92,136	40,649	74,351	115,000	+24.8%
税引前利益	90,788	42,458	71,542	114,000	+25.6%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	68,935	30,794	54,206	85,000	+23.3%
基本的1株当たり 当期利益 (円)	170.08	75.22	131.61	206.83	+21.6%

為替レート	2022年3月期 通期	2023年3月期 下半期想定
US\$	111.55円	140.00円
ユーロ	130.47円	140.00円
タイバーツ	3.44円	3.90円
人民元	17.35円	20.00円

セグメント別業績予想

(百万円)	2022年3月期		2023年3月期		
	通期	上半期	下半期	通期	前期比
売上高	1,124,140	581,061	668,939	1,250,000	+11.2%
機械加工品	177,470	97,688	102,312	200,000	+12.7%
電子機器	371,023	179,405	190,595	370,000	-0.3%
ミツミ事業	429,116	224,164	285,836	510,000	+18.8%
ユーシン事業	145,577	78,946	88,054	167,000	+14.7%
その他	954	858	2,142	3,000	3.1倍
営業利益	92,136	40,649	74,351	115,000	+24.8%
機械加工品	45,717	22,726	28,274	51,000	+11.6%
電子機器	21,561	3,463	11,537	15,000	-30.4%
ミツミ事業	41,846	24,793	27,207	52,000	+24.3%
ユーシン事業	732	301	3,199	3,500	4.8倍
その他	△1,429	△692	△308	△1,000	-
調整額	△16,291	△9,942	4,442	△5,500	-

事業概況と経営戦略

Business Update & Management Strategy

2022年11月2日

代表取締役 会長兼社長執行役員
(CEO & COO)

貝沼 由久



さらなる成長に向け、着々と布石を打つ



ベアリング

月産345百万個体制が確立



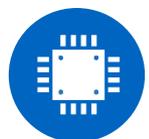
航空機関連

9月単月で営業利益10億円を計上



モーター

資材高騰の中、マージンを維持できた



アナログ半導体

好調を維持



OIS

生産・受注・シェアなど想定通り



M&A

相合*によるシナジー創出へ

*相合（そうごう）：「総合」ではなく、「相い合わせる」ことを意味し、自社保有技術を融合、活用して「8本槍」を進化させるとともに、その進化した製品をさらに相合することでさまざまな分野で新たな製品を創出すること。

“Electro Mechanics Solutions[®]” の土台が完成

エレクトロ

電子部品技術

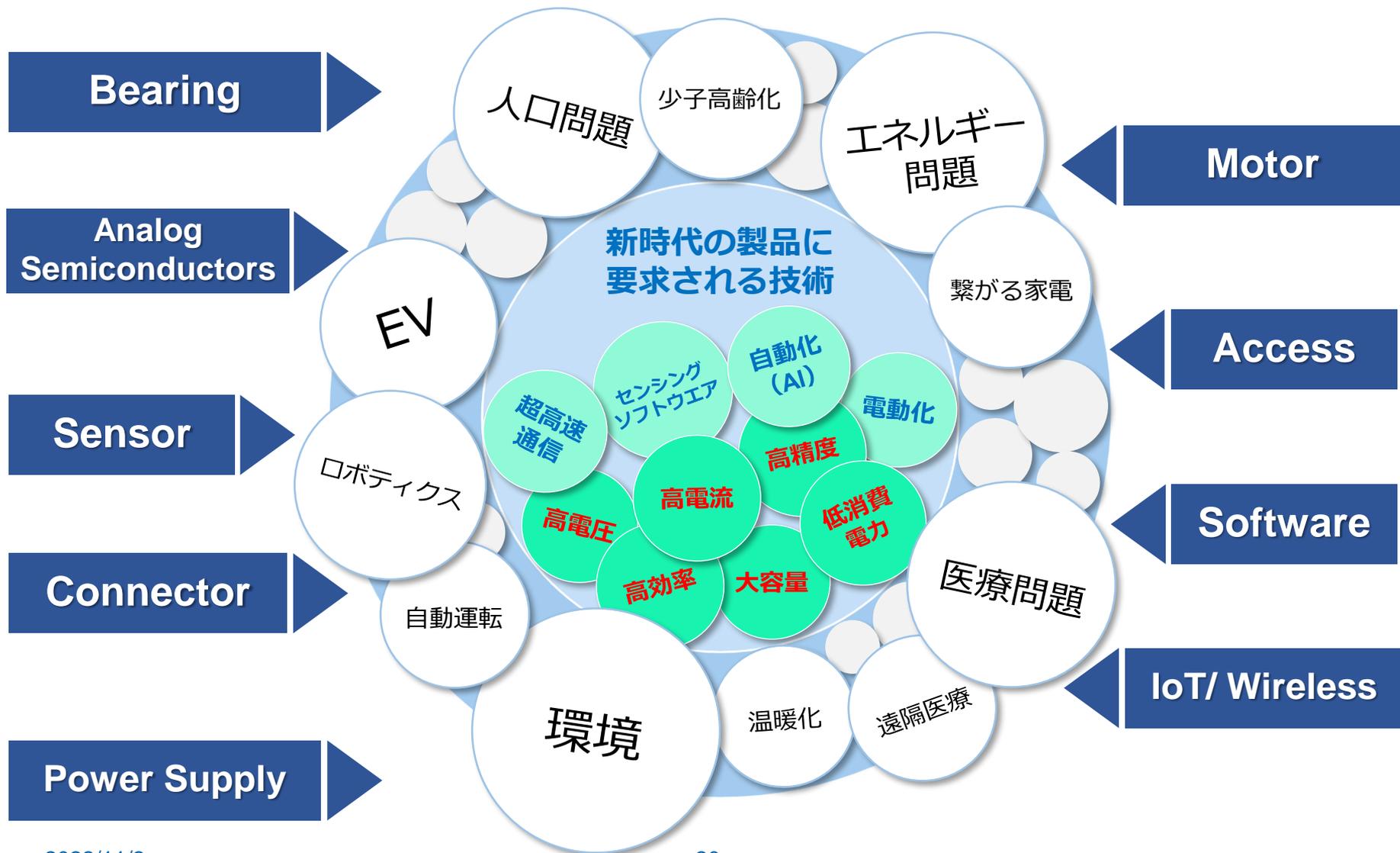
メカニクス

超精密加工技術

ソリューションズ

本多通信工業との統合による
280名超のソフトウェアエンジニアを中心に
「クロステック事業本部」を設立

8本槍を中心とした製品開発を加速



ついに営業利益1,000億を達成し、最高益更新へ！

下半期のポイント

- 3本槍（ベアリング、モーター、アナログ半導体）+OISが引き続き当社全体の業績をけん引
- ベアリングは堅調継続、フル生産を想定
- モーターはHDD向けの減産影響あるも、下半期も成長継続
- アナログ半導体は収益性の維持を目指す
- OISは主要顧客向け順調
- 東京本部ビル売却による営業利益（130億円）を反映

(百万円)

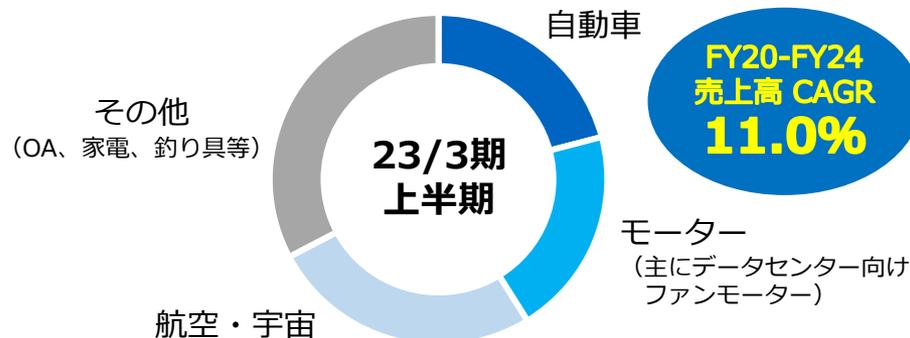
	2022年3月期 通期	2023年3月期			
		上半期	下半期	通期	前期比
売上高	1,124,140	581,061	668,939	1,250,000	+11.2%
営業利益	92,136	40,649	74,351	115,000	+24.8%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	68,935	30,794	54,206	85,000	+23.3%
基本的1株当たり 当期利益（円）	170.08	75.22	131.61	206.83	+21.6%

圧倒的競争力で、営業利益は500億円越えへ

1 ボールベアリング事業

- 一部用途でマクロ経済減速による影響あるも、自動車向け、データセンター向けを中心に堅調
- 戦略在庫の積み増しを含め、フル生産継続
- ベアリングのさらなる精度向上による消費電力削減、製品寿命向上の取り組み継続

ボールベアリング+ロッドエンド 用途別売上高

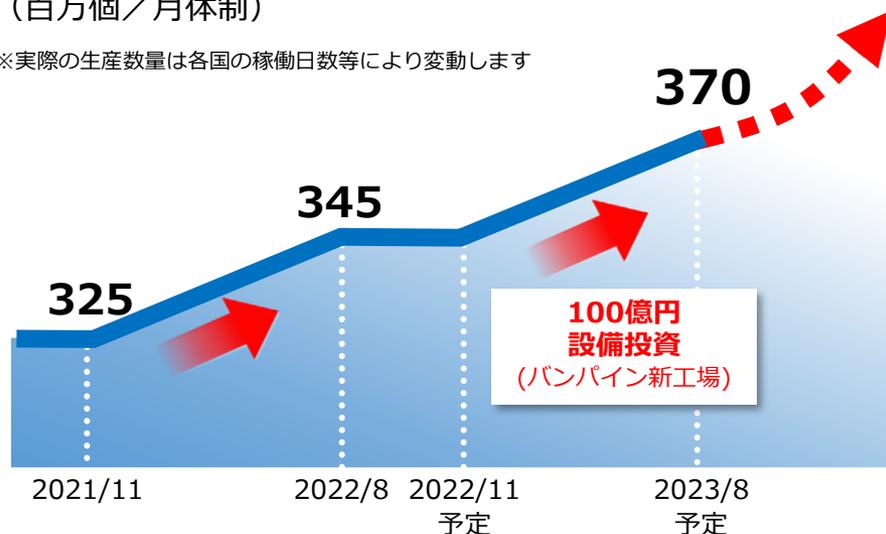


2 航空機関連事業

- 航空機需要・生産レート、当社の受注・受注残など、コロナ前の水準に向けた回復が続く
- プッシュ型からプル型生産への改善で納期遅れゼロ
- CO₂排出削減に貢献する新領域への展開により市況回復を上回る成長に期待

ミニチュア・小径ボールベアリング生産能力の推移 (百万個/月体制)

※実際の生産数量は各国の稼働日数等により変動します

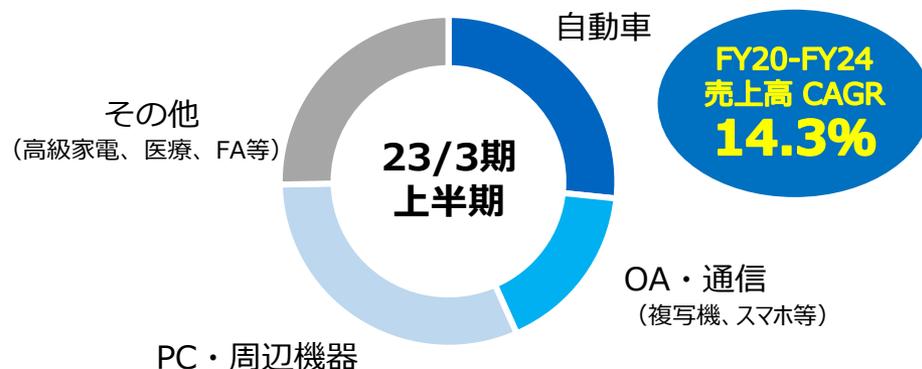


モーターを中心とした着実な成長

モーター事業

- 上海ロックダウン/半導体不足に加え、ハードディスク市場減速の影響あるも、価格改定の効果と生産性改善で一部相殺
- EV向けを含む自動車向け新規量産製品が続々と立ち上がり、売上・利益をけん引

モーター事業 用途別売上高



自動車・EV向け主要モーター製品の一例

自動車向け (EVを含む)

環境機能



アクティブ・グリル・アクチュエーター



バルブ用
アクチュエーター

安全機能



EPB用DCモーター



LIN Bus Type
ヘッドライトアクチュエーター

快適機能



HVAC用
ステッピングモーター



シートベンチレーション

EV向け

EV固有機能



トラクションモーター
向けレゾルバ



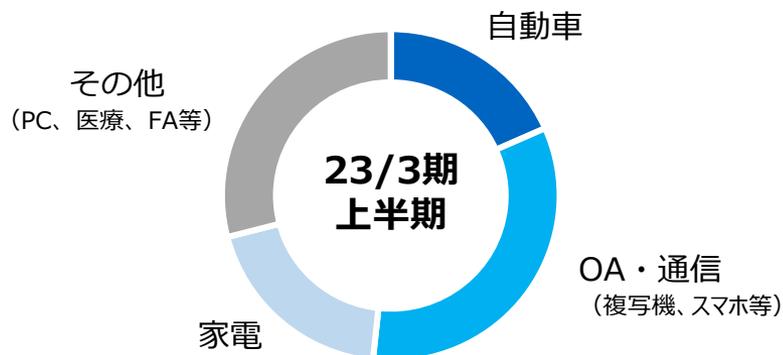
EV用二次電池
冷却FAN

ミツミ事業はピカピカに！

1 アナログ半導体事業

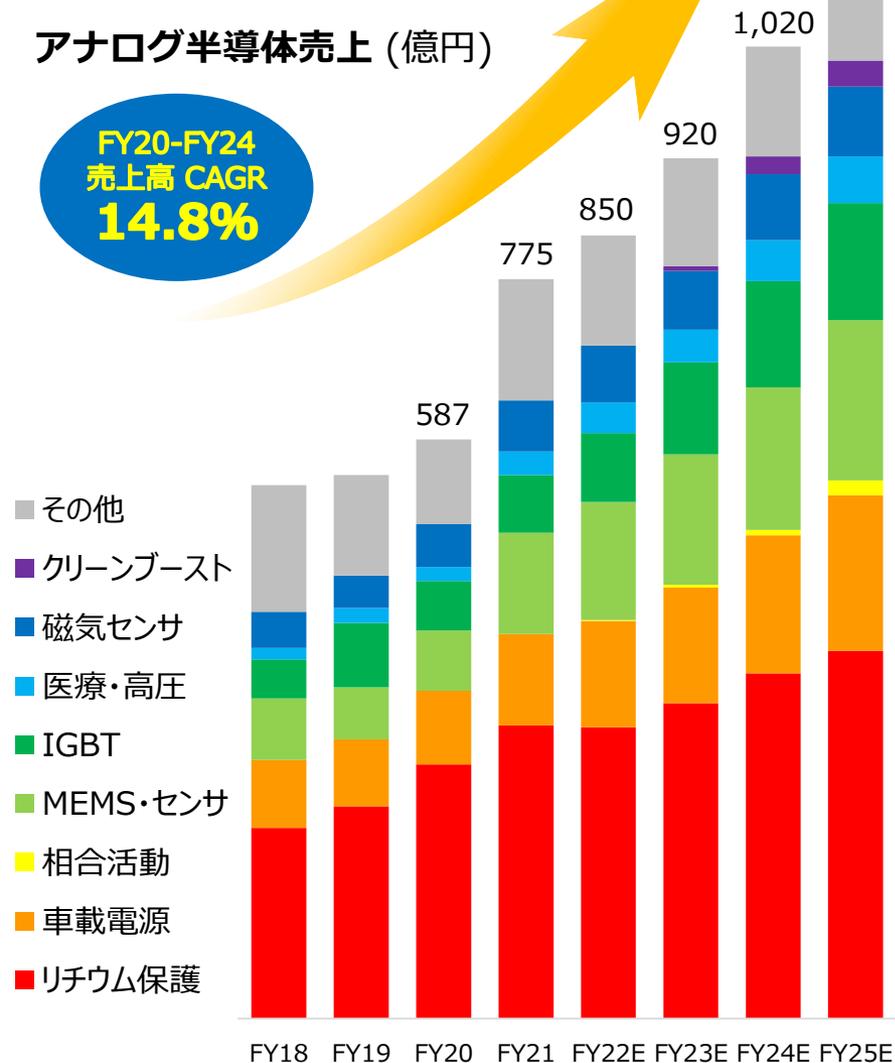
- 今期売上は850億円達成の見込み
- PC/スマホ等での減速あるも、IGBT・車載・医療向けは堅調、フル稼働を維持
- MMIセミコンダクター（旧オムロン野洲）からIGBTの出荷開始、来期収益貢献へ
- 相合活動による新製品開発・成長を加速

アナログ半導体事業 用途別売上高



アナログ半導体売上 (億円)

FY20-FY24
売上高 CAGR
14.8%



アナログ半導体市場は中長期で成長継続

需要予測は、半導体全体では下方修正も、アナログ半導体では上方修正

半導体全体の市場成長率予測



アナログ半導体の市場成長率予測

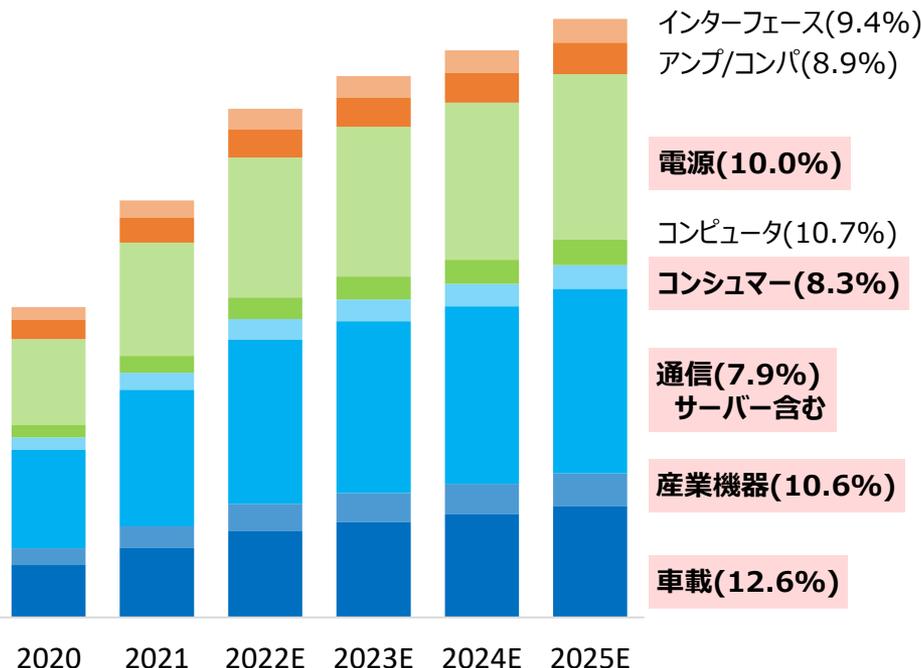


アナログ半導体の中期市場成長予測

アナログ'21-'25 CAGR:

6月予測8.6% → 8月予測9.4%

■ : 当社注力分野 (CAGR%)

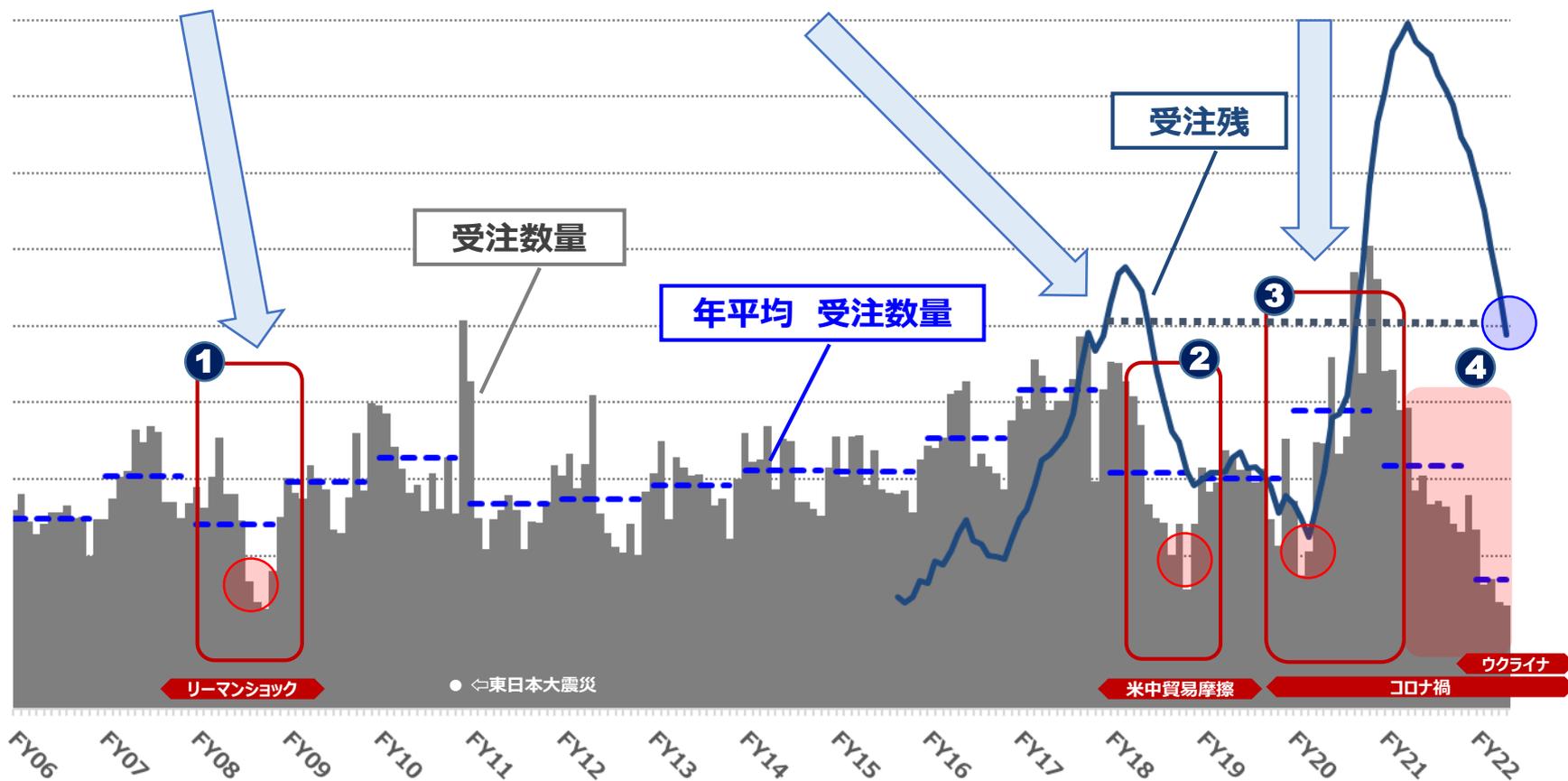


*WSTS社データより当社作成

過去の教訓から、谷底からの脱出は近い？

過去の傾向と市況を注視し、遅れないよう準備を進める

- ① リーマンショック (谷底3か月) ② 米中貿易摩擦 (谷底3か月) ③ コロナショック (谷底2か月)



コネクタは「相合」によるシナジー創出を加速

2 光デバイス・機構部品

- 光デバイスは生産・受注・シェアなど想定通り。新規顧客・新事業領域への展開を図る
- 将来の増産に向けた新工場が竣工
- ゲームも当面は堅調維持と想定、期初計画は達成の見込み

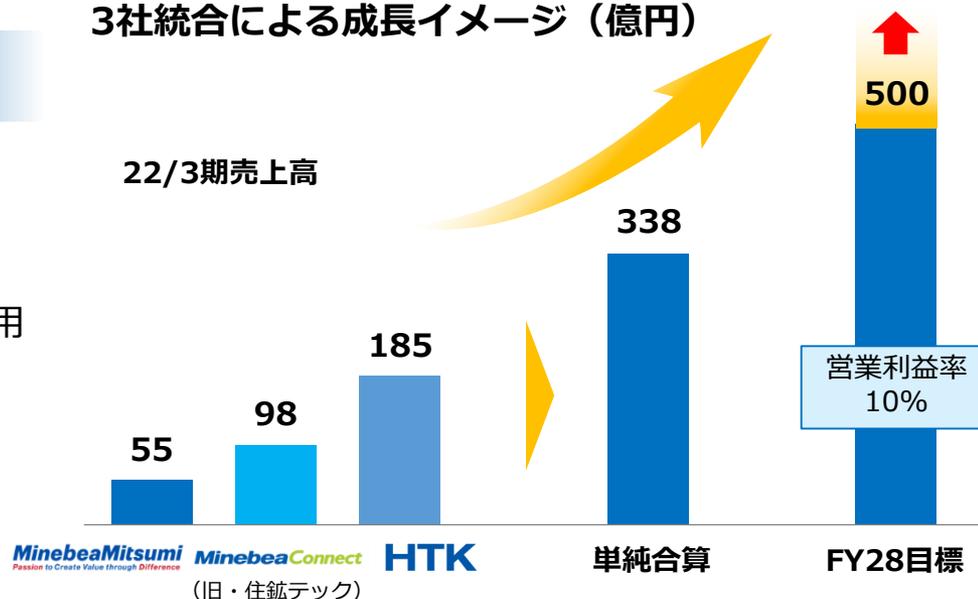
3 コネクタ事業

- 3社統合により、8本槍の1つとして強靱化
- グローバルニッチトップ戦略を展開
- 海外での垂直統合生産、グローバル販路も活用して成長、収益性の向上を目指す

Naga工場 (フィリピン)



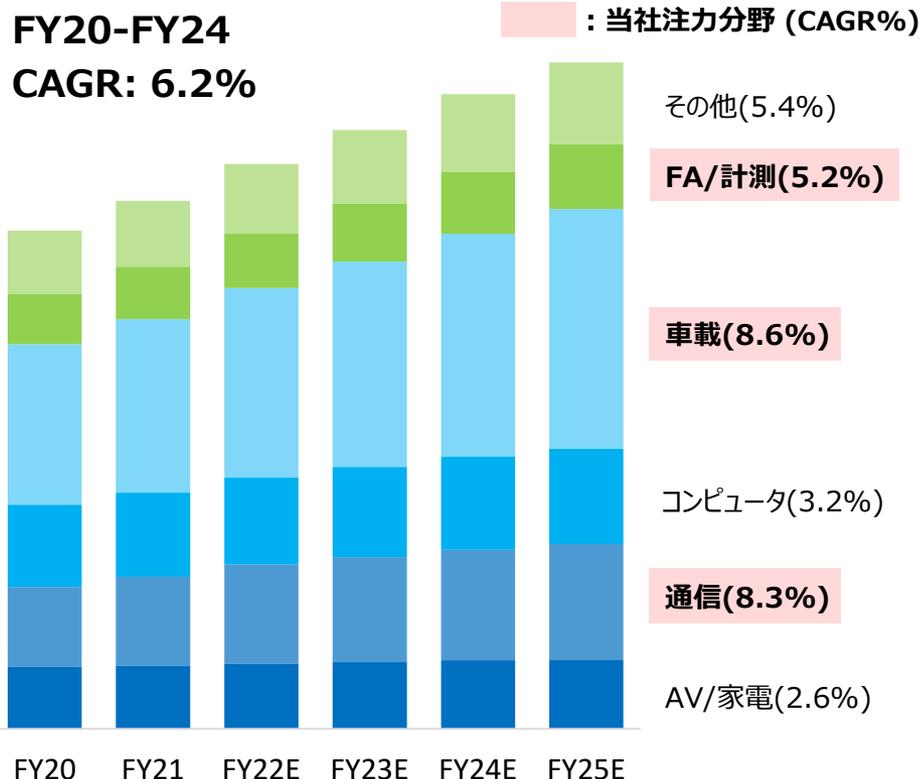
コネクタ事業の 3社統合による成長イメージ (億円)



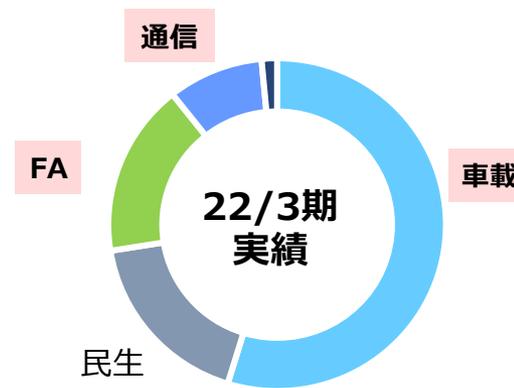
コネクタは車載・通信にフォーカスし高い成長へ

車載・通信・FA向けで売上増を狙う

コネクタの中期市場成長予測



3社合計 用途別売上高



MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

HTK

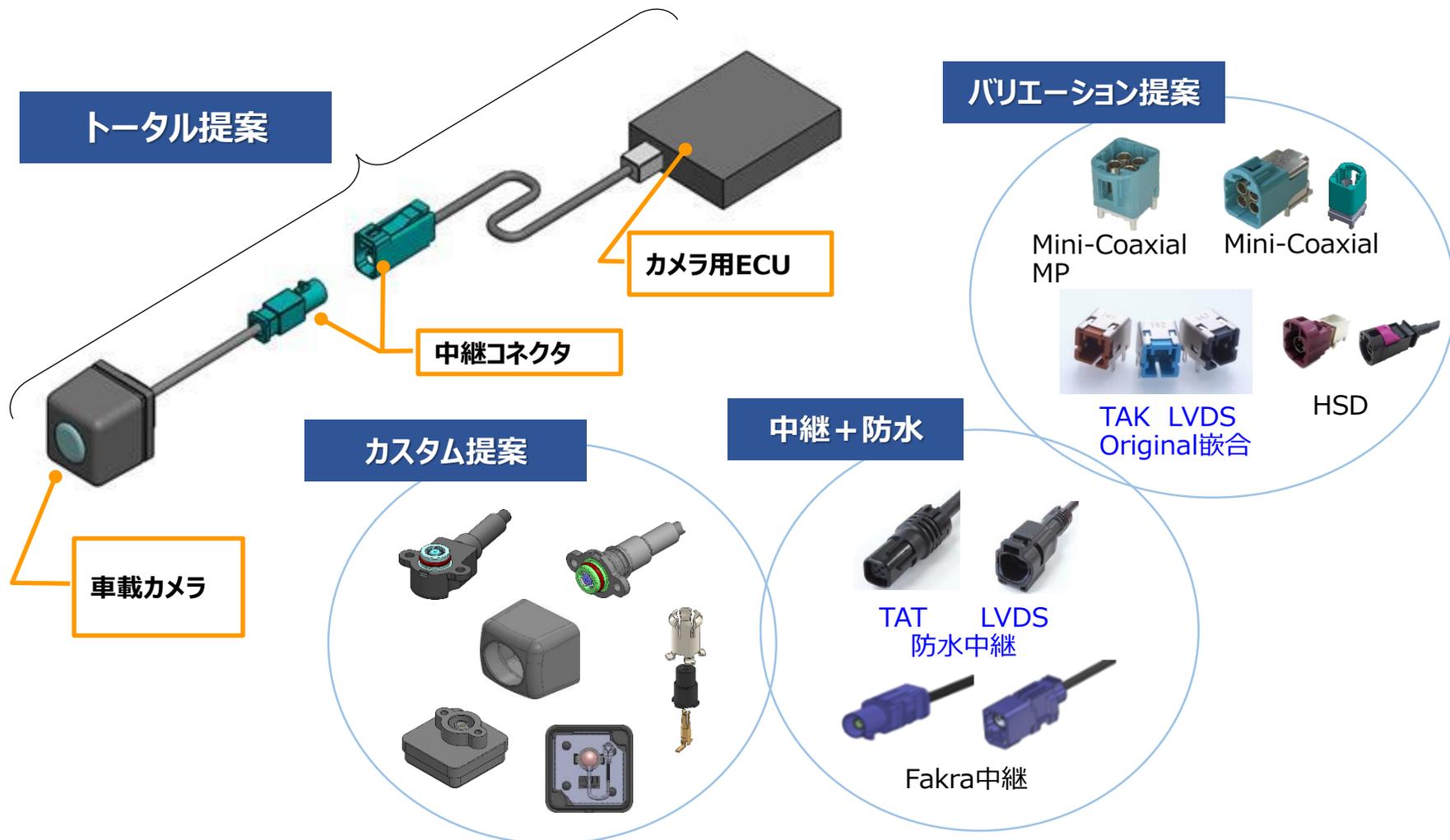
MinebeaConnect

(旧・住鋳テック)

*産業情報調査会データより当社作成

3社統合によるトータルソリューションの提供

(車載カメラの例) カメラからECUまで、コネクタ、ケーブル、ハーネスを提供



向かい風を乗り越え、完全復活は間近

1 自動車事業

- 自動車生産の回復とともに完全復活を目指す
- マクロ経済の減速懸念も、自動車生産は当面は高い水準が続くことを想定
- 高付加価値品へのシフトを継続
→フラッシュハンドル、E-Latch、CSD

2 欧州構造改革の進捗

- 低価格品からの撤退と人員削減を完遂、収益性の改善と固定費の低減が進む
- ビジネスコスト高騰やウクライナ影響あるも、10月には欧州事業部で単月黒字化を達成

次の成長の柱となる、相合・高付加価値製品

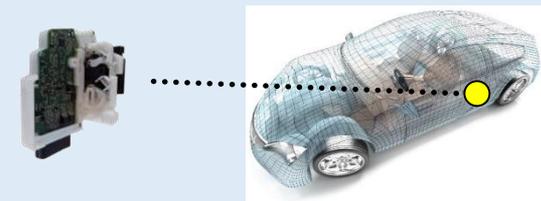
▶ フラッシュハンドル

リモコンキーを持った人が車に近づくとドア表面からハンドルが自動的に出てくる。デザイン性や空力性能の向上に貢献。



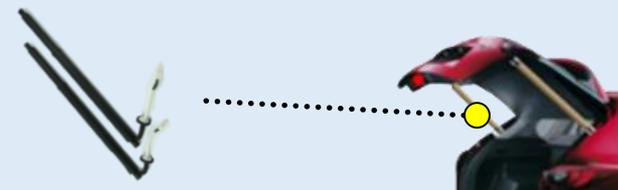
▶ E-Latch

小型軽量化を図った電氣的解除のラッチ（ドアを施錠解除する装置）。



▶ CSD (Compact spindle drive)

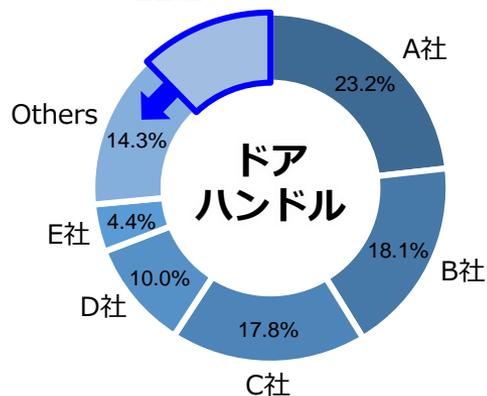
車両のバックドアの両端に搭載し、バックドアの電動開閉をおこなう。



売上高3,000億円、営業利益10%の達成を目指す

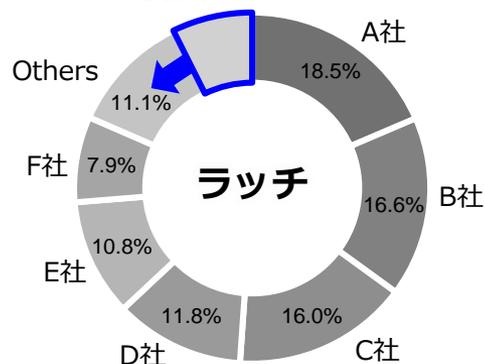
ユーシン + ホンダロック

12.2%



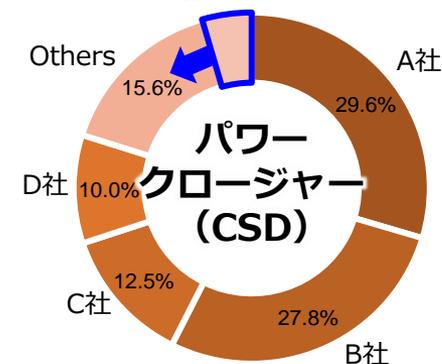
ユーシン + ホンダロック

7.3%



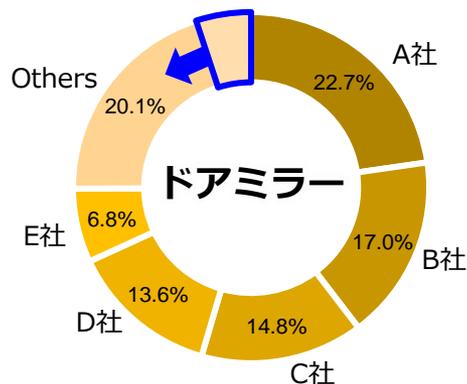
ユーシン + ホンダロック

4.5%



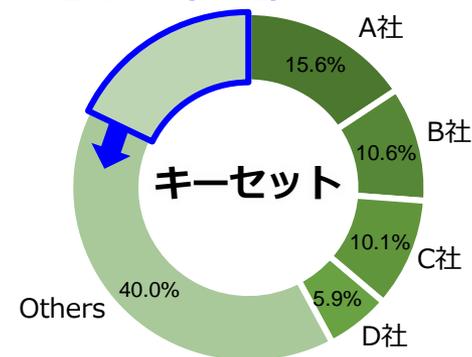
ユーシン + ホンダロック

5.0%



ユーシン + ホンダロック

17.8% (No.1)



*当社推定値、CY2020

A社、B社、C社…は製品ごとに異なります

営業利益の成長を実現する主力事業



ベアリング

月産能力さらに2,500万個増



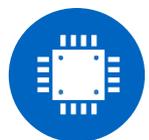
航空機関連

営業利益はコロナ前の100%回復へ



モーター

自動車向け新規量産品立ち上がり継続



アナログ半導体

滋賀工場でIGBT 3倍へ更なる施策

*MMIセミコンダクター



OIS

引き続き堅調維持



ゲーム関連

引き続き堅調と予想

想定通りに進捗、統合シナジーの実現へ

本多通信工業

- 2022年9月16日 経営統合、連結子会社化
- 年内にスクイーズアウトを実施予定
- 売上高・利益はミツミ事業セグメントに計上

旧・住鋳テック

- 2022年11月1日 経営統合、連結子会社化
- 社名は「**ミネベアコネク**ト株式会社」とする
- 売上高・利益はミツミ事業セグメントに計上

ホンダロック

- 2022年度中の統合を目指す
- 売上高・利益はユーシン事業セグメントに計上予定

当社100周年（2051年）に向けた基礎固めのための経営戦略



2本柱で世界のCO₂排出削減に貢献

①カーボンニュートラルへの挑戦

②MMIビヨンドゼロの推進

持続可能な地球環境の実現に向けた取り組みを一層推進する資金を調達

グリーンボンドの概要

名称	ミネベアミツミ株式会社第10回無担保社債 (社債間限定同順位特約付) (グリーンボンド) (別称: ミネベアミツミ・グリーンボンド)
発行年限	5年
発行額	未定
発行時期	2022年11月以降 (予定)
取得格付	Green 1 (F) / 株式会社日本格付研究所 (JCR)

中間配当は前年比 2 円増配

23/3期 配当

中間配当	未定	→	20 円/株
期末配当 (予想)	未定	→	未定

期末配当は、当期の業績を勘案した上で決定の予定
中長期的なキャッシュアロケーション方針は不変

(ご参考) 22/3期 配当

年間配当36円 (中間配当18円 期末配当18円)

統合報告2022を発行

自律成長、M&Aに加え、社会的課題解決製品の開発と部品供給を新たな軸とした当社の成長戦略を説明。今年には人材戦略や機会とリスクについての記載を充実させました。

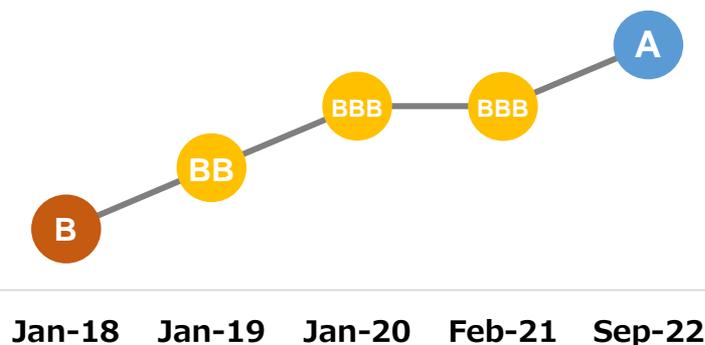
当社ウェブサイトでご覧下さい。→



MSCIのESG格付でA格を取得

ESG活動の推進ならびに開示改善が評価され、A格を取得しました。5年で3ノッチのアップグレードとなりましたが、企業価値向上に向けてさらに改善してまいります。

Rating history



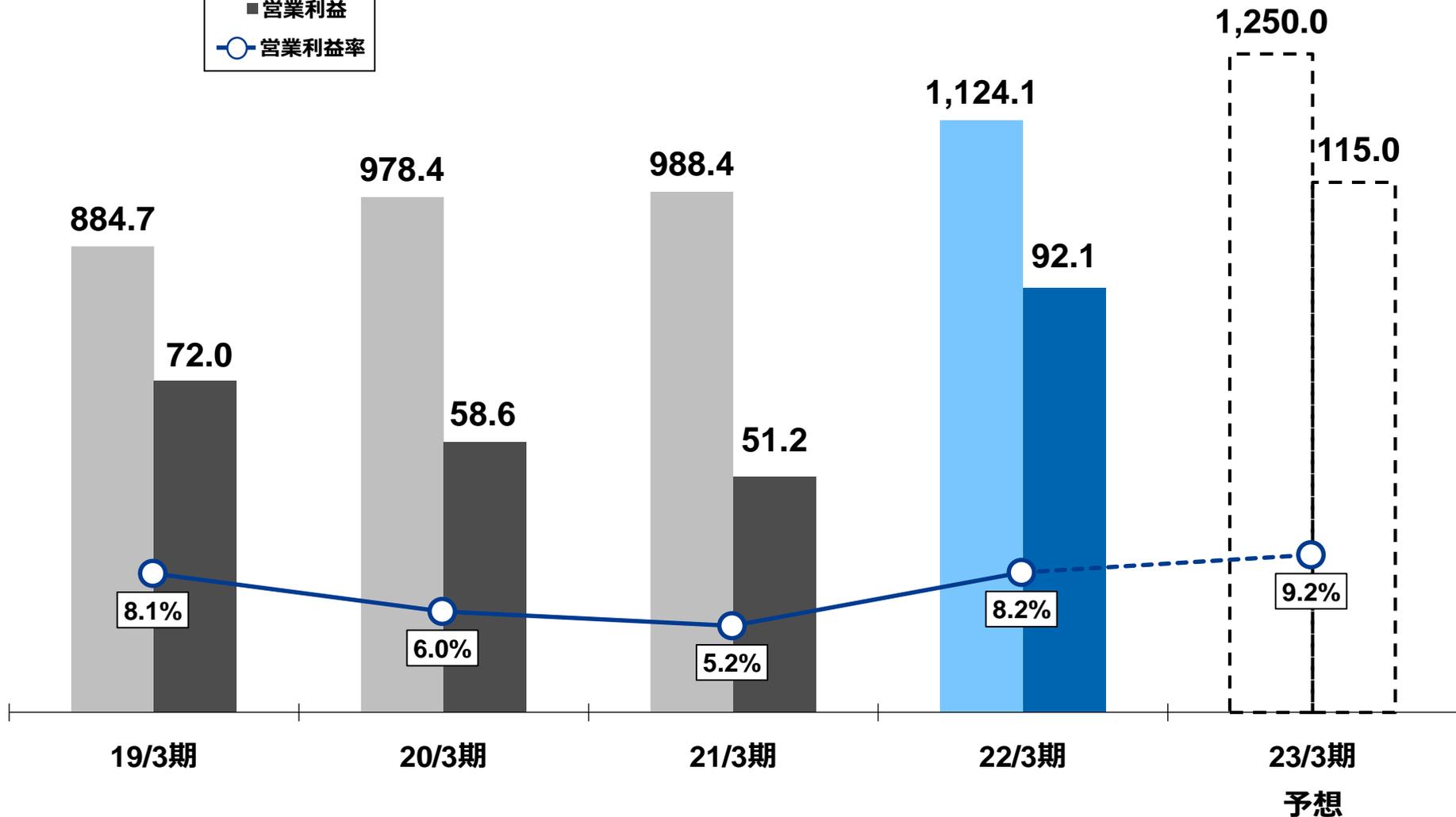
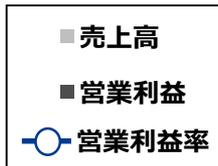


当資料で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいています。実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。本資料に掲載のあらゆる情報はミネベアミツミ株式会社に帰属しています。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。

參考資料

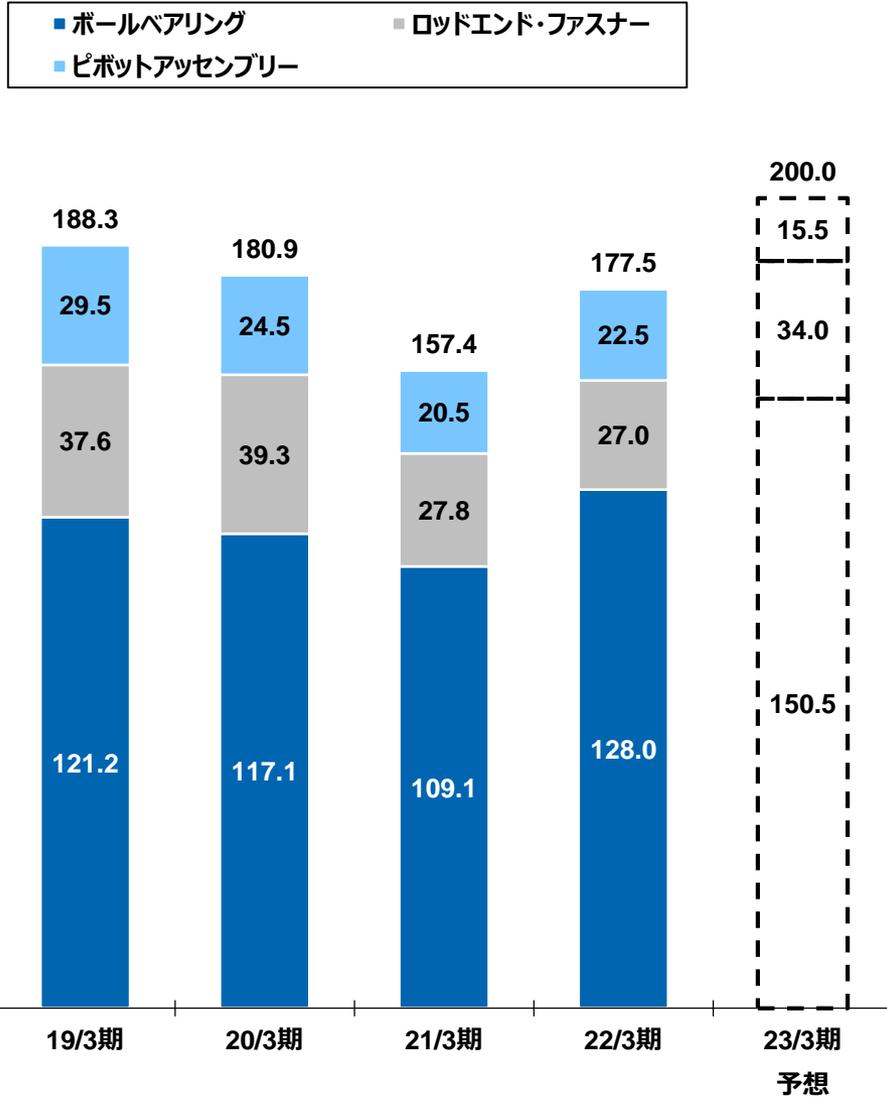
売上高、営業利益、営業利益率

(10億円)

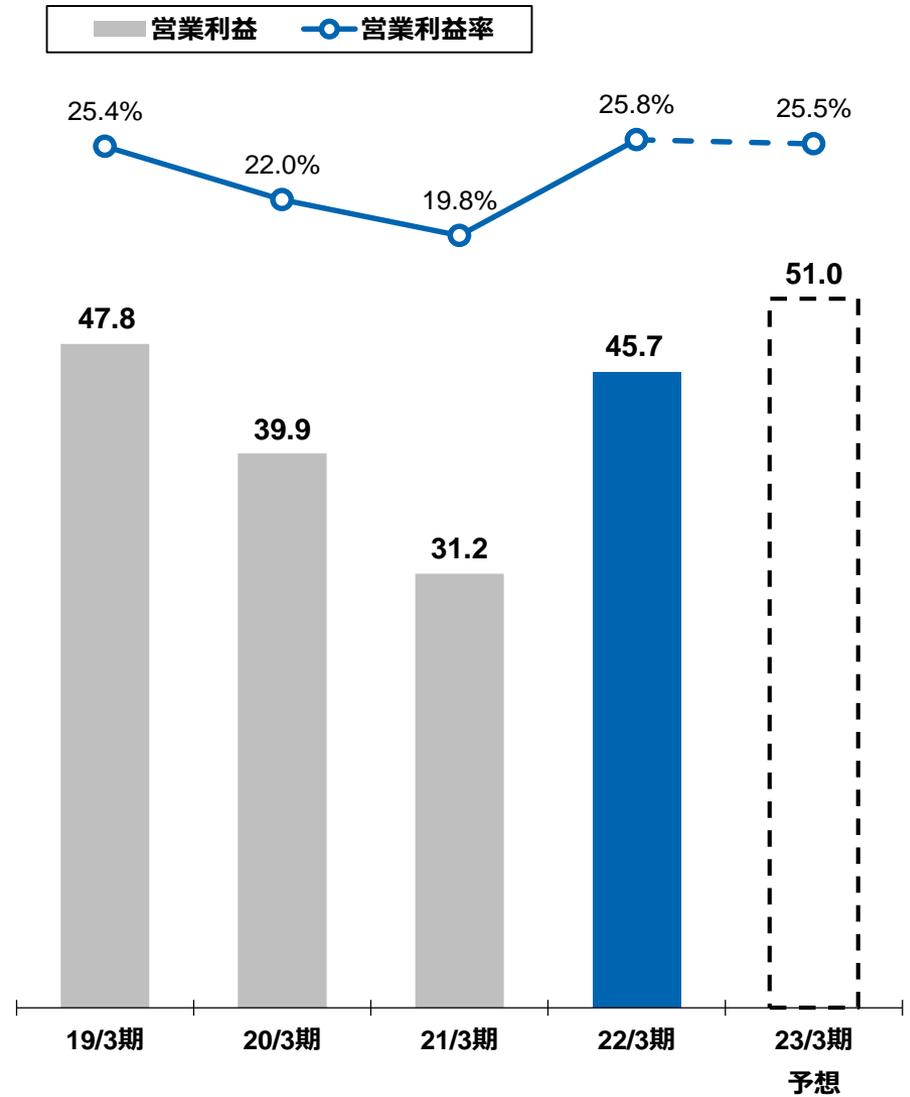


機械加工品セグメント

売上高 (10億円)

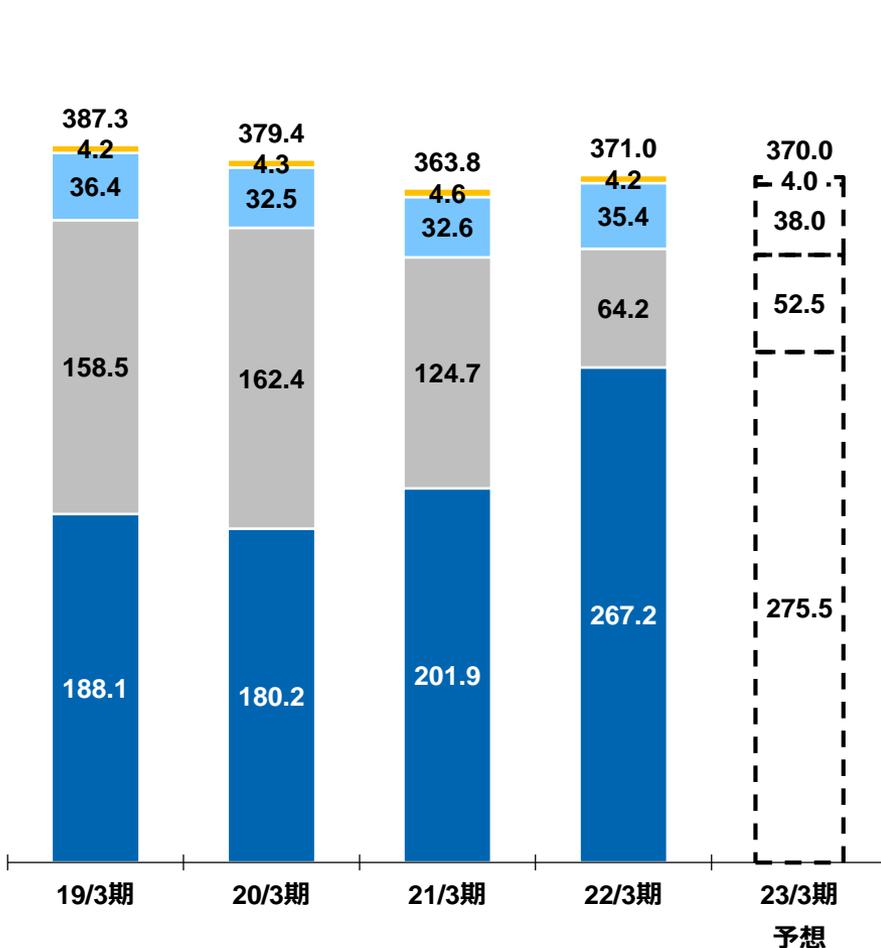
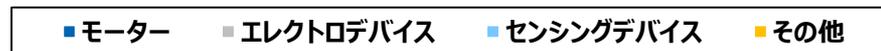


営業利益 (10億円)

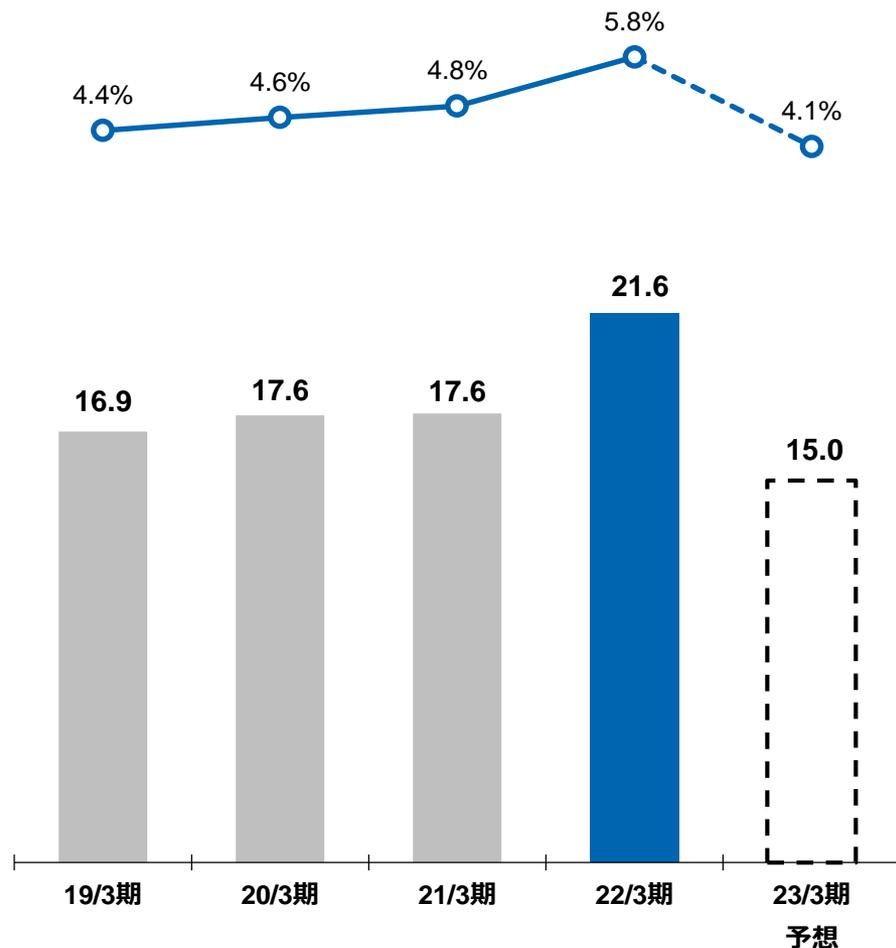


電子機器セグメント

売上高 (10億円)

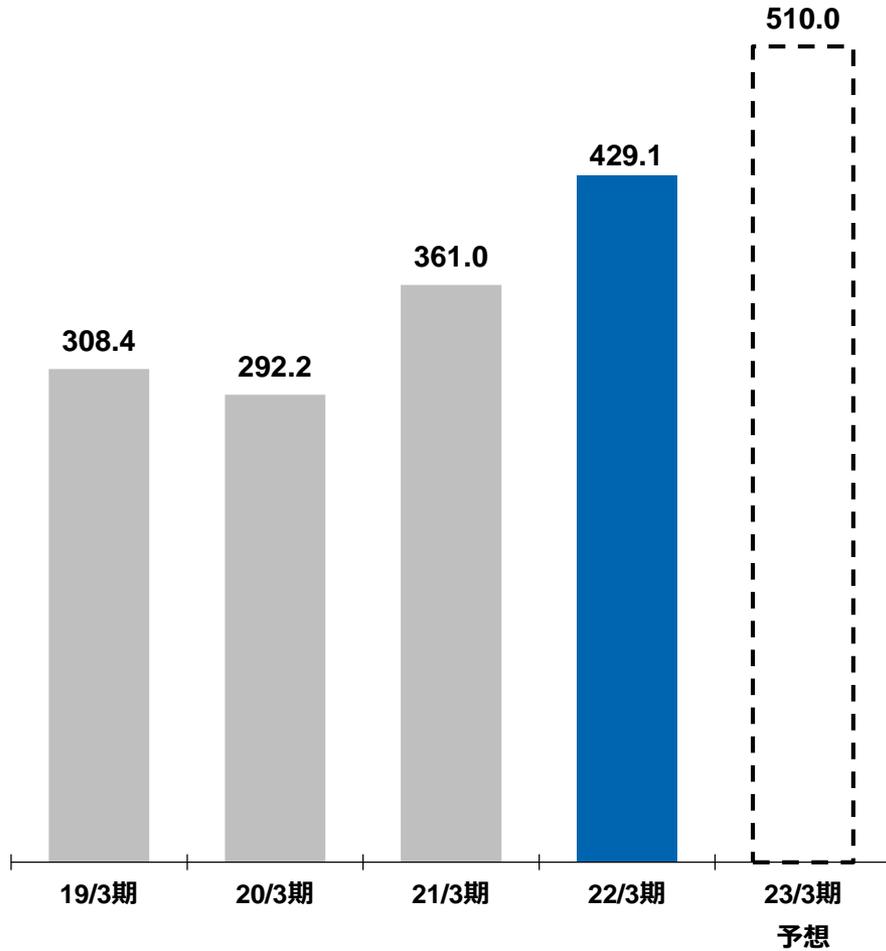


営業利益 (10億円)

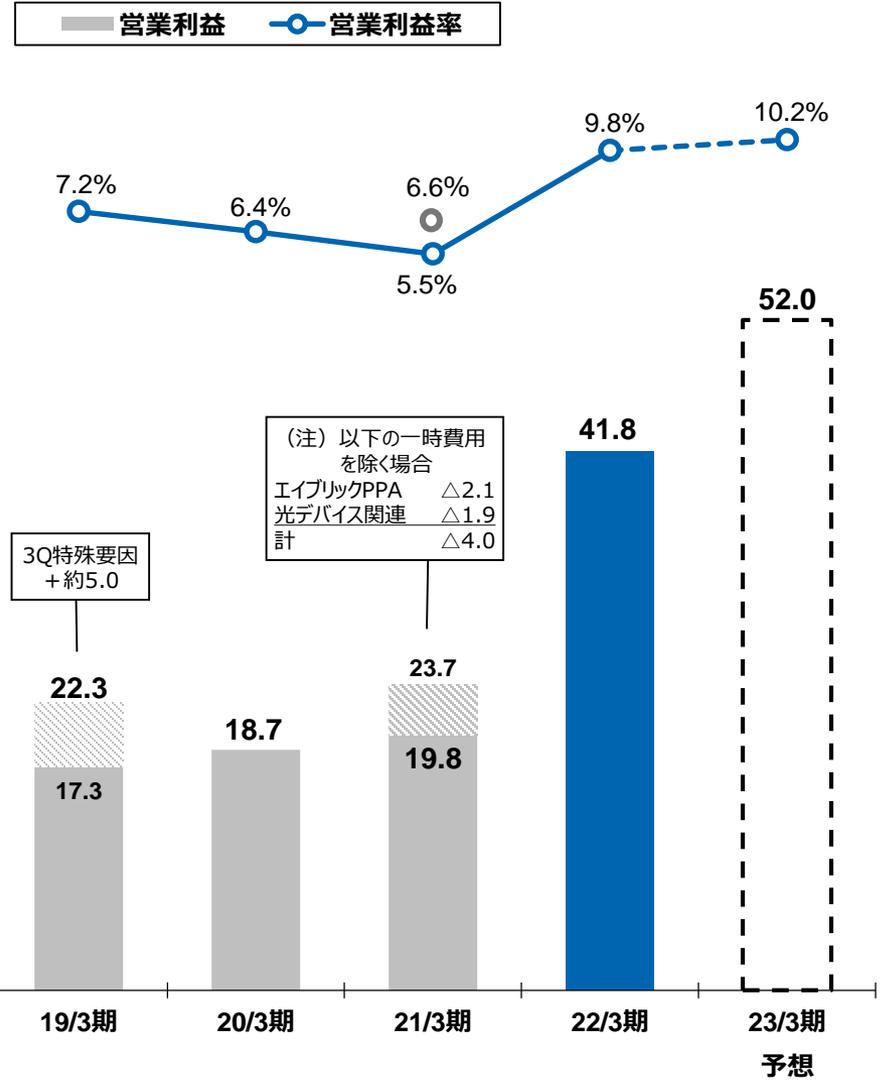


ミツミ事業セグメント

売上高 (10億円)



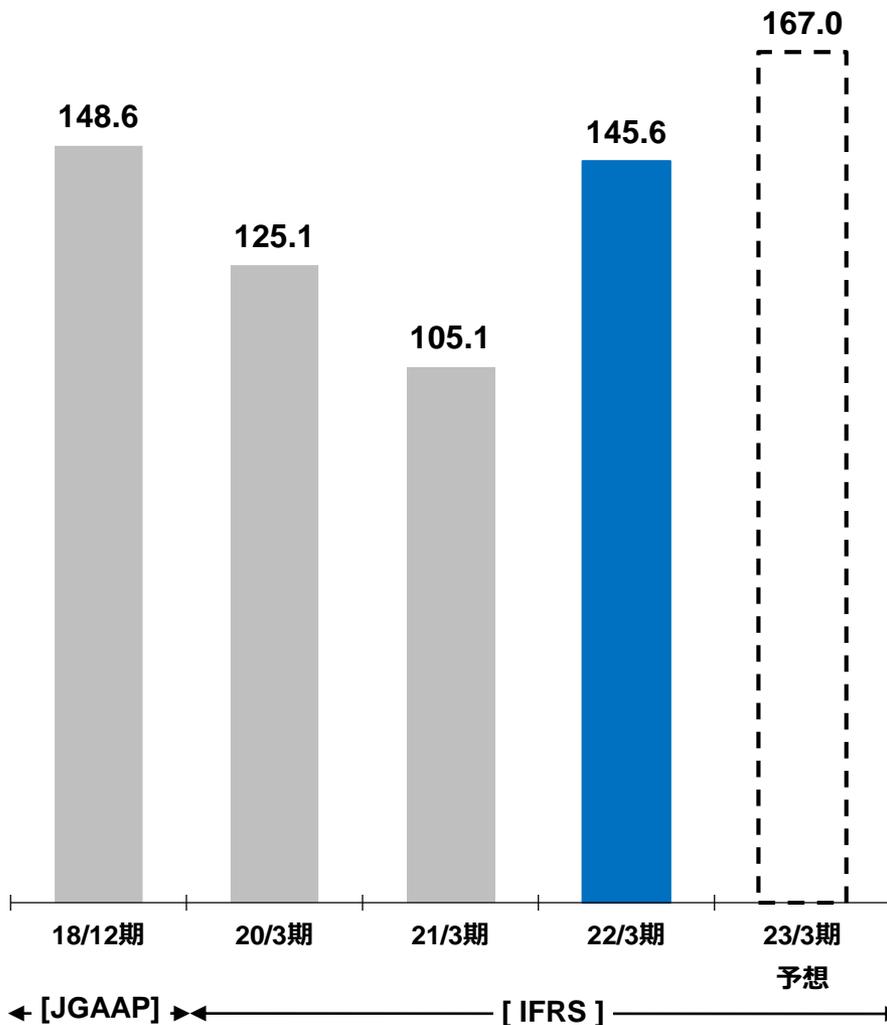
営業利益 (10億円)



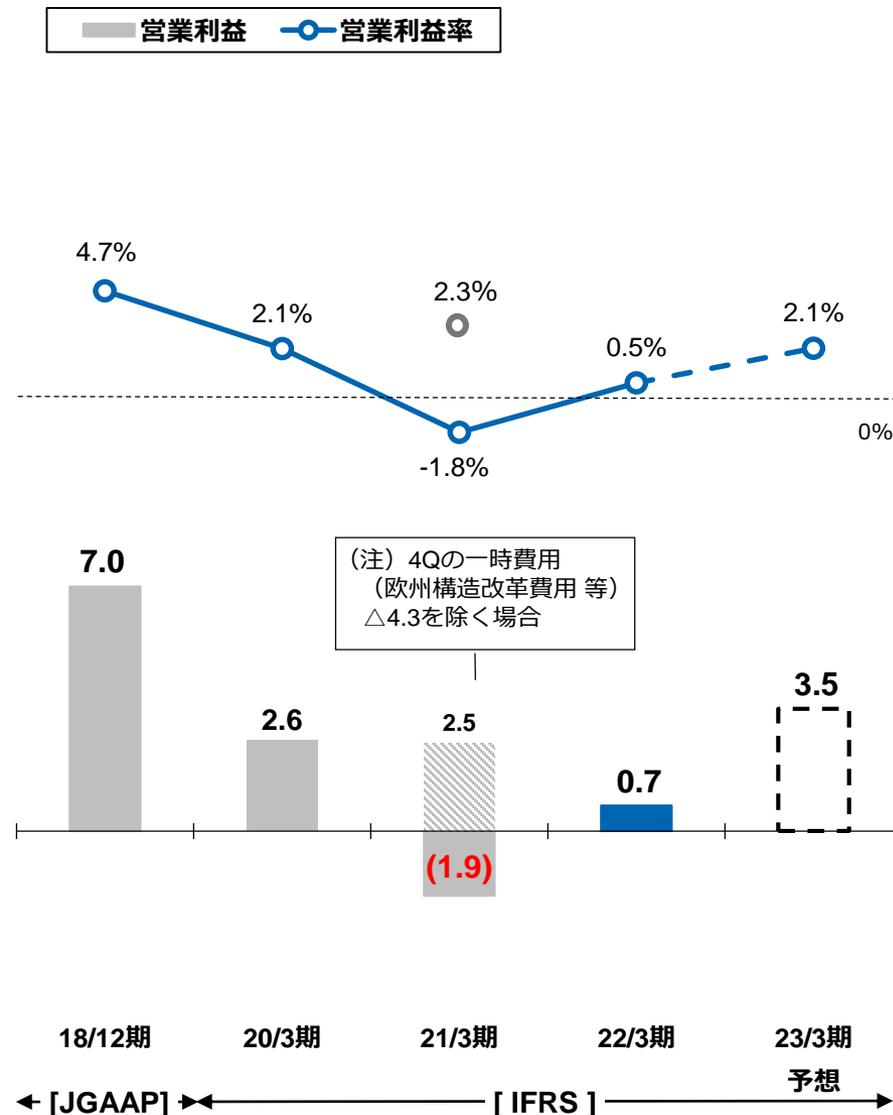
ユーシン事業セグメント

決算期変更に伴い
18/12期は経営統合前の参考値でJGAAP
20/3期は2019年1-3月の数値を含まず

売上高 (10億円)

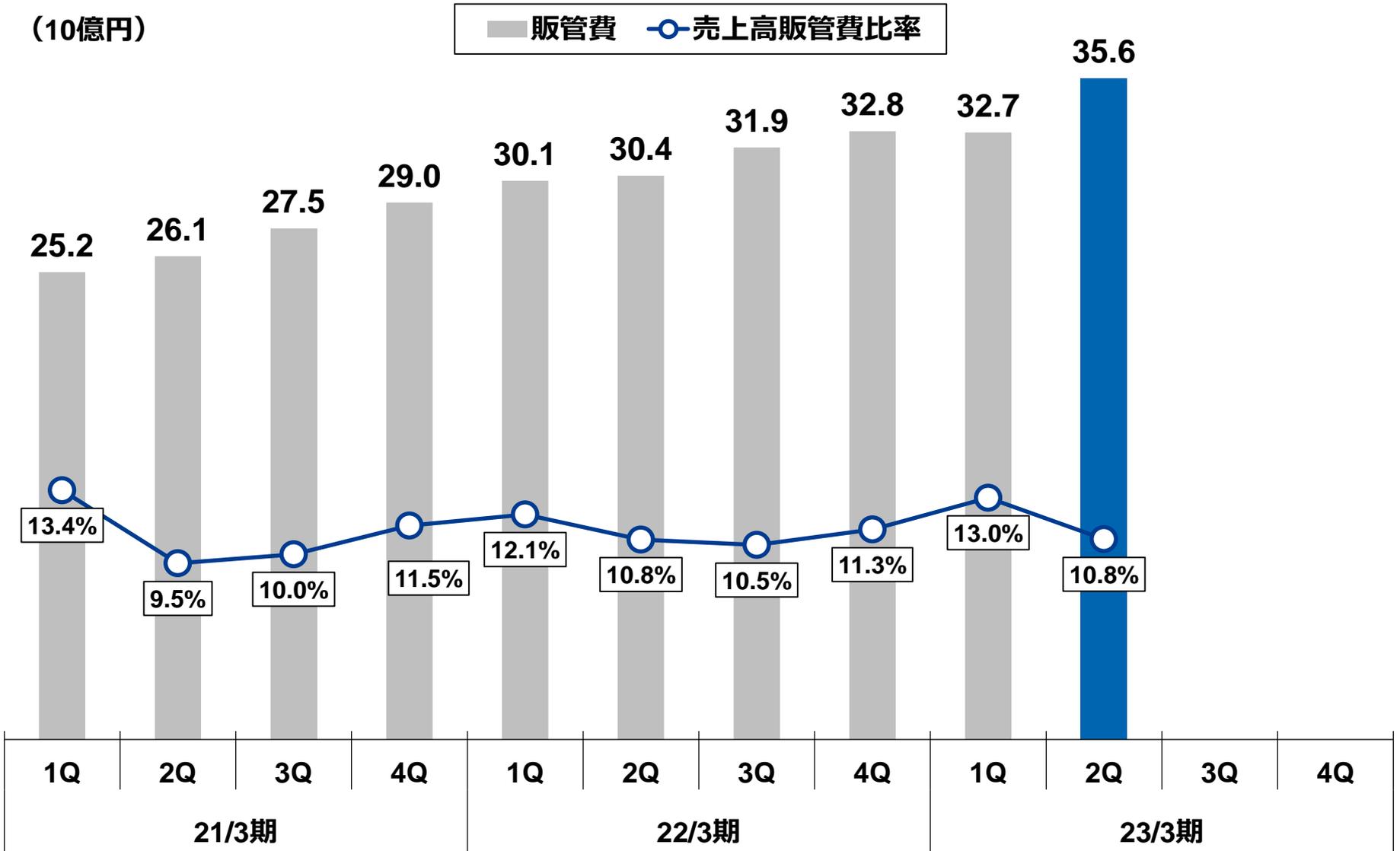


営業利益 (10億円)



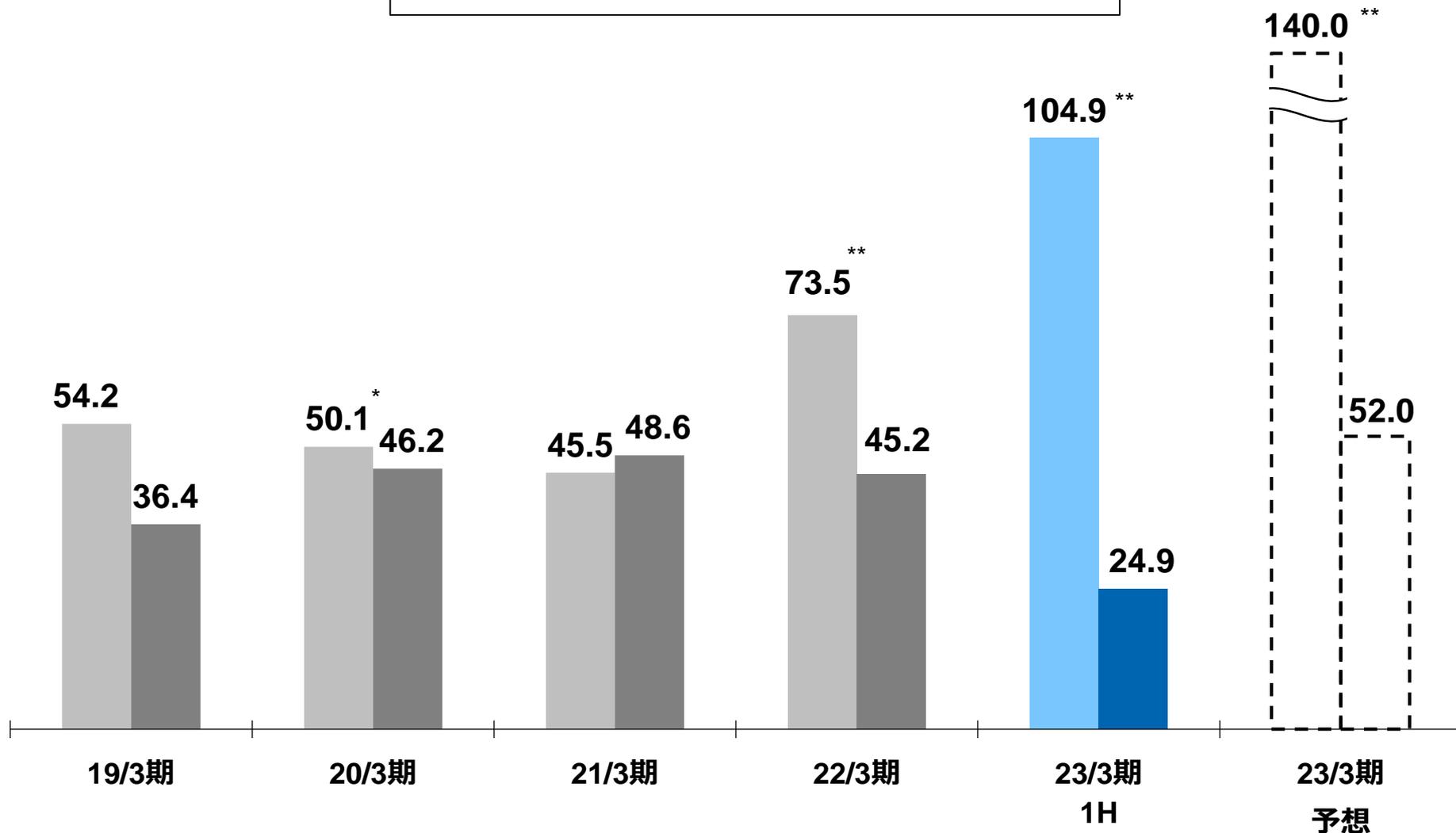
販管費

(10億円)



設備投資額・減価償却費

(10億円)



*20/3期 設備投資額には、IFRS16号適用開始日に増加したリース資産は含まれていません。

**22/3期、23/3期の設備投資額には、新本部ビル取得費用が含まれています。

ROIC (投下資本利益率)

ユーシン事業は19/3以前は経営統合前の参考値でJGAAP、
全社には含まない。その他のセグメントは18/3期はJGAAP

ミネベアミツミ版
ROIC

$$\text{ROIC} = \frac{\text{NOPAT (営業利益 + 特別損益)} \times (1 - \text{税率})}{\text{投下資本 (受取手形・売掛金 + 棚卸資産 + 固定資産 - 支払手形・買掛金)}}$$

セグメント別で管理できる事業資産（売上債権・債務、棚卸資産、固定資産）で算出

